

熊本大学
グローバル教育カレッジ
における組織評価
自己評価書

平成 30 年 9 月 28 日
31. グローバル教育カレッジ

目次

I 熊本大学グローバル教育カレッジの現況及び特徴	2
1. 現況	2
2. 特徴	2
3. 組織の目的	4
II 教育の領域に関する自己評価書	5
1. 教育の目的と特徴	6
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	7
3. 観点ごとの分析及び判定	7
4. 質の向上度の分析及び判定	28
III 社会貢献の領域に関する自己評価書	29
1. 社会貢献の目的と特徴	30
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	31
3. 観点ごとの分析及び判定	32
4. 質の向上度の分析及び判定	41
IV 国際化の領域に関する自己評価書	42
1. 国際化の目的と特徴	43
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	44
3. 観点ごとの分析及び判定	44
4. 質の向上度の分析及び判定	56
V 管理運営に関する自己評価書	57
1. 管理運営の目的と特徴	58
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	59
3. 観点ごとの分析及び判定	59
4. 質の向上度の分析及び判定	73

I 熊本大学グローバル教育カレッジの現況及び特徴

1. 現況

(1) 学部等名：熊本大学グローバル教育カレッジ

(2) 学生数及び教員数（平成 30 年 5 月 1 日現在）

：学生 0 人（日本語研修生 2 人）、

専任教員数（現員数）：6 人（教授 2 人、准教授 1 人、講師 3 人）、

特定事業教員数：5 人

（特任教授 1 人、特任准教授 2 人、特任講師 1 人、特任助教 1 人）

2. 特徴

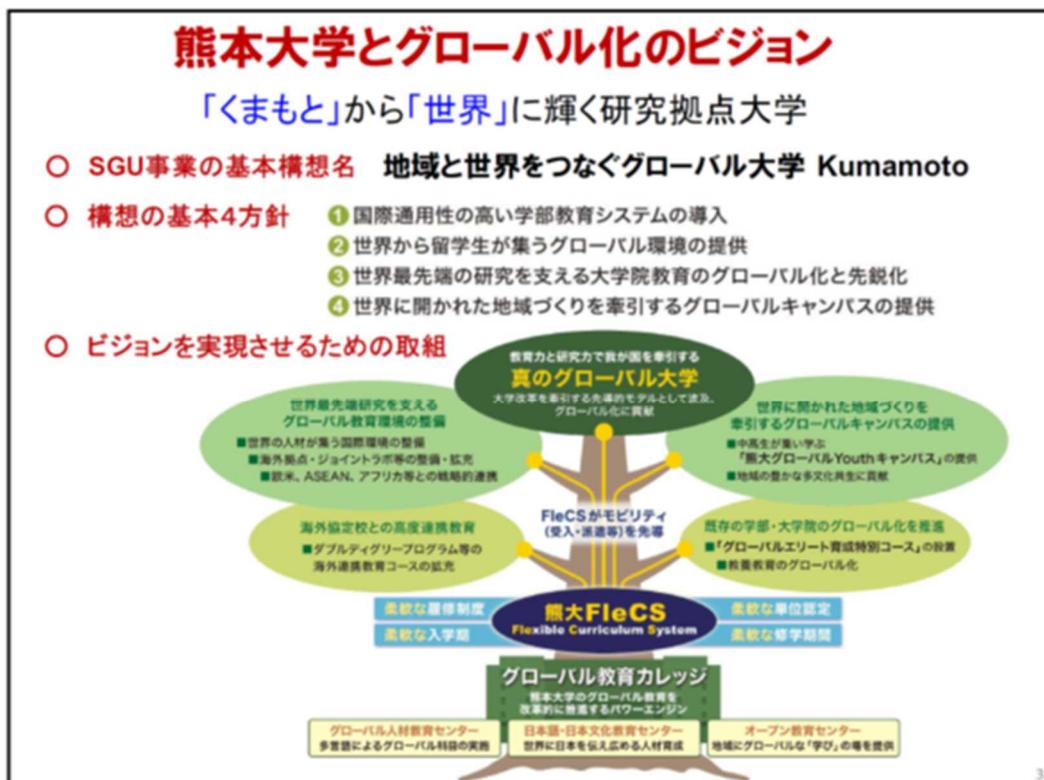
本学が、国立大学法人として高い水準の教育研究及び社会貢献を実施していくためには、高い国際競争力を有し、国内外の優秀な学生・研究者を惹きつける大学環境を実現する必要がある。このため、外国人留学生（以下、留学生）や外国人研究者の受入環境の充実、大学環境の英語化（大学 Web ページや広報物、学内業務系文書、キャンパスのサイン等の英語併記）、海外拠点の整備・活用や留学生募集プロモーションの強化、国際的な大学間連携の拡充、教職員の国際化に対応したスキル向上など国際化推進の多彩な方策を展開している。

また、本学は、文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業（以下、SGU）に採択されており、「地域と世界をつなぐグローバル大学 Kumamoto」という構想を掲げ、グローバル人材の育成に注力している（資料 I - 1）。

グローバル教育カレッジは、SGU の中核組織として、平成 27 年 3 月に設置され、SGU の目的達成のため、中心的な役割を担っている。主として学部教育のグローバル化に対応するため、英語による国際通用性の高い教養授業科目 Multidisciplinary Studies の提供を行う「グローバル人材教育センター」、留学生に対して日本語及び日本文化の教育を行う「日本語・日本文化教育センター」、地域のグローバル化や高大連携によるグローバル教育を推進する「オープン教育センター」から構成される（資料 I - 2）。また、平成 28 年 3 月に新しくグローバル教育カレッジ棟を開所し、日本人学生と留学生が相互に交流を深め、本学にしながら異文化交流が体験できる交流スペースやインターナショナルプラザの設置、英語による授業提供に対応した教室等の環境整備を行っている。

さらに、グローバルリーダーコース（以下、GLC）の教育プログラムにおいて、中核的な役割を担っている。GLC とは、平成 29 年 3 月より、文学部、法学部、理学部（入学定員各 10 人）及び工学部（入学定員 20 人）に設置されたものであり、多様な価値観を受け入れられる豊かな教養と国際感覚、確かな専門性と柔軟性のある創造的な思考力を身に付け、国内外における地域の課題をグローバルな視点で考え、果敢に行動できる人＝グローバルリーダーを育てるコースである。グローバル教育カレッジは、Pre-GOKOH School Program（入学前教育：自主参加型のセミナー、事前課題演習、eラーニングにおける英語学習等）及び GOKOH School Program（Academic Skill を身に付けるグローバル学修プログラム、Human Skill を身に付けるグローバル課外教育プログラムの 2 つの区分からなる教育プログラム）といった教育プログラムの提供に大きく貢献している。

資料 I - 1 SGU 構想について



(出典：平成 28 年度熊本大学グローバルアドバイザーリーボード資料より)

資料 I - 2 グローバル教育カレッジについて

熊本大学

College of Cross-Cultural and Multidisciplinary Studies

グローバル教育カレッジ

グローバルリーダーコース

平成 29 年度から文学部、法学部、理学部および工学部の各学部でグローバルリーダーコースを新たに設置します。グローバルリーダーコースの学生は、グローバル教育カレッジが提供する科目を含め、4 学部の連携・協力のもと、独自の教育プログラム (GOKOH School Program) を履修します。国際対話力だけでなく、グローバルリーダーに必要な知力、能力及び専門基礎力を身につけ、基本的に 3 年連続時に所属する学部の中で希望する学科・コースを選択します。

グローバル人材教育センター

Center for Global Communications

英語によるグローバル科目の提供、留学生と共に学ぶキャンパス環境を通して、グローバルに活躍できる熊大生を育成します!
【グローバル科目30科目開講】

日本語・日本文化教育センター

Center for Japanese Language and Culture

日本語、日本文化を学ぶ留学生に対して、質の高い教育カリキュラムを提供し、世界に日本を伝え広める人材を育成します!

オープン教育センター

Center for Open Education

高校・高専生と熊大の留学生が交流する「熊大グローバルYouthキャンパス」を実施し、地域にグローバルな「学び」の場を提供します! (詳細は裏面へ)

(出典：熊本大学グローバル教育カレッジパンフレットより)

3. 組織の目的

グローバル教育カレッジは、SGU採択を契機に、事業遂行を核として、教育研究のグローバル化と大学のガバナンス改革を更に強力に推進していくために、これまでの「国際化推進センター」の後継組織として、平成27年3月に設立されたものである。それまでの国際化推進センターの機能と役割を大きく拡充させ、英語による授業の充実と学生の海外留学促進、留学生受入促進のための日本語教育の強化、そして地域や高等学校・高等専門学校との連携によるグローバル教育の浸透などを実践するために、「グローバル人材教育センター」、「日本語・日本文化教育センター」及び「オープン教育センター」の3つの特徴的な部門によって編成されている。

グローバル教育カレッジは、本学におけるグローバル教育の推進支援、留学生の修学・生活等支援及び地域社会のグローバル化を推進することを目的としており、熊本大学グローバル教育カレッジ規則にて、以下の業務を行うと定めている。

- (1) 英語による教養・リベラルアーツに関すること。
- (2) 日本語・日本文化に関すること
- (3) 日本語研修コース等に関すること。
- (4) 短期交換留学等に関すること。
- (5) サマープログラム等の短期研修プログラムに関すること。
- (6) 地域の高等学校等の生徒及び学生に対する早期グローバル教育及び一般外国人に対するグローバルな学びの場の提供に関すること。
- (7) その他本学のグローバル化に関する目的を達成するために必要な事項
(資料I-3)

資料I-3 グローバル教育カレッジの業務について

Q1-(2) グローバル教育カレッジとGLC・各学部との関係

グローバル教育カレッジ

グローバルリーダーコース(GLC)

- ・グローバル学修プログラム提供
(英語による教養教育科目)
- ・グローバル課外教育プログラム提供

担当教員は
全員外国籍




全学・学部

- ・ Multidisciplinary Studies科目提供
→ 学生のグローバル対応力向上
- ・ 英会話講座(english-TALKmon等)の開催
→ 学生の英語コミュニケーション能力向上
- ・ IELTS等語学試験講座
→ 海外への学生派遣増加

地域

- ・ 中学・高校・高専へのグローバル教育支援
- ・ グローバルワークショップ等の開催
- ・ 地域在住外国人の支援

6/19

(出典：平成29年度第6回SGU推進本部会議より)

Ⅱ 教育の領域に関する自己評価書

1. 教育の目的と特徴

グローバル教育カレッジにおける教育の目的は、熊本大学のグローバル教育の推進支援、外国人留学生（以下、留学生）の修学・生活等支援を推進することである。

グローバル人材教育センター及びオープン教育センターにおいては、グローバル教育の推進を行っている。具体的には、正規生及び留学生が受講できる英語による教養教育 Multidisciplinary Studies を提供し、日本人学生が留学生と共に学ぶキャンパス環境を通して、グローバルに活躍できる人材の育成に貢献している。また、正規の授業以外でも、多くの学生がグローバルな学びの機会を得られるよう、英語による授業外活動（english-TALKmon）や留学に必要な英語運用能力試験（IELTS）の対策講座等を実施している。

また、グローバルリーダーコース（以下、GLC）において、中核的な役割を担っている。GLCは、平成28年3月より、文学部、法学部、理学部（入学定員各10人）及び工学部（入学定員20人）に設置されており、多様な価値観を受け入れられる豊かな教養と国際感覚、確かな専門性と柔軟性のある創造的な思考力を身に付け、国内外における地域の課題をグローバルな視点で考え、果敢に行動できる人＝グローバルリーダーを育てるコースである。グローバル人材教育センター及びオープン教育センターは、Pre-GOKOH School Program（入学前教育：自主参加型のセミナー、事前課題演習、eラーニングにおける英語学習等）及びGOKOH School Program（Academic Skillを身に付けるグローバル学修プログラム、Human Skillを身に付けるグローバル課外教育プログラムの2つの区分からなる教育プログラム）といった教育プログラムの提供に大きく貢献している（資料Ⅱ-1-1）。

日本語・日本文化教育センターにおいては、留学生に対して、日本語及び日本文化の教育を行うプログラムの提供を行うだけでなく、平成29年度に採択された文部科学省「留学生就職促進プログラム」におけるビジネス日本語教育の提供において中核的な役割を担っている。

資料Ⅱ-1-1 GLCについて



（出典：平成29年度 グローバルリーダーコース入試ガイドより）

〔想定する関係者とその期待〕

本学の学生、教職員、学外の教育関係者、そして将来本学において学修または研究を希望する学生や研究者などが直接的な関係者となる。この他にも、グローバル教育カレッジが取り組む国際的な教育支援の幅広い活動に関わる関係者は多岐にわたり、その想定範囲は非常に広い。これら関係者の期待は、グローバル教育カレッジが提供する様々なプログラムやサービスの向上であり、充実した国際的な教育研究支援のメリットを享受できることであると考えられる。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

グローバル教育カレッジは、平成 28 年度より、英語による教養教育 Multidisciplinary Studies の提供を開始し、履修人数は増加傾向にある。

また、GLC において、Pre-GOKOH School Program や GOKOH School Program など、国際化社会を牽引できる強い胆力（精神力）と、世界の国々で地域の文化に根ざし、柔軟な思考も持ってグローバルに活躍できる人材の養成に必要な教育プログラムを提供し、重要な役割を担っている。

留学生の受入については、特に海外協定校を中心に、交換留学プログラムを実施しており、協定校数の増加が留学生受入の増加に結びついている。また、日本語・日本文化研修留学生（大使館推薦国費留学生）については、重点的な広報活動が基点となって、大幅な入学者の増加に結びついている。

日本人学生の海外留学に関しては、学内の留学説明会「留学のすすめ」、メーリングリストによる情報配信サービス及びウェブサイト等によって留学情報発信を行い、海外留学の動機付けを行っている。そして、協定校への交換留学、サマースクール、海外語学セミナー、研究目的の海外インターンシップ、学生主体の国際会議等の多彩な留学プログラムを提供している。

【改善を要する点】

国をあげたスーパーグローバル大学創成支援事業（以下、SGU）の進展とともに、学内における教育と国際化の関連付けをどのように整理し、今後の本学の戦略構築と組織の見直し等をどのように図っていくかは、重要な課題である。グローバル教育カレッジは、グローバル推進機構と連携して解決していくことが必要である。

留学生の急増により、対応が追いつかないケースがあるため、留学生の動向を十分に注視し、必要ならば事前にクラス数を調整するなど、対応を検討する必要がある。また、日本人学生と留学生との協働による授業は、教員個人レベルでの授業での実践に留まっている。本学全体の取り組みとして、日本人学生と留学生が同じクラスで学ぶ体制作りを進めていくために、他学部との連携強化が不可欠である。さらに、海外協定校と協力して、Joint teaching や交流プログラムなどを実施し、Multidisciplinary Studies を強化する必要がある。

また、日本語・日本文化教育センターにおいては、多様な日本語教育プログラムの提供が必要な状況に対して教員数が不足しており、その対策が必要である。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 1-1 教育実施体制

（観点到係る状況）

グローバル教育カレッジは、平成 30 年度より、グローバル人材教育センター／オープン教育センターを統合したグローバル教育分野と日本語・日本文化教育分野（従来の日本語・日本文化教育センター）の 2 分野制に変更となっているため、各観点については、グローバル人材教育センター／オープン教育センターと日本語・日本文化教育センターの 2 つに分けて記載する。

グローバル人材教育センター／オープン教育センター

○教員組織編成や教育体制の工夫とその効果

平成 28 年度時点において、専任教員 2 名と特定事業教員 6 名で構成され、英語による教養教育科目として、Multidisciplinary Studies を 30 テーマ提供し、合計 410 名の学生が履修した。平成 28 年度から平成 29 年度にかけて、5 名（専任教員 1 名、特定事業教員 4 名）の転出があったため、非常勤講師を活用することで、前年度同程度の 28 テーマを提供、履修者数については 694 名と前年度より増加した（資料Ⅱ-1-1-1,2）。

また、平成 29 年度には、専任教員 2 名及び特定事業教員 1 名を新たに採用し、今後に向けて、バランスの良いカリキュラムを提供し、テーマ数を更に増やしていく体制が整っている。

資料Ⅱ-1-1-1 平成 29 年度提供の Multidisciplinary Studies について

Multidisciplinary Studies 授業科目一覧(網掛け部分が平成29年度開講科目)		
授業科目	授業テーマ	単位数
Introduction to Science and Technology I	(a) Introduction to Biology	1
Introduction to Science and Technology II	(a) Life and Environment	1
Socio-Cultural Studies	(A) Introduction to Socio-Cultural Studies	2
	(b) Violence, Peace and Conflict	1
Statistics	(a) Introduction to Statistics	
Basic Economics	(a) Principles of Economics	1
	(b) Economics of Women and the Family	1
Visual Media	(A) Visual Culture	2
Music and Humanity	(a) Music and Humanity	1
World History	(a) The Brothers Grimm – More than Fairy Tales!	1
	(b) Discovering the Middle Ages – East and West	1
	(c) Defining Leadership: The Generals of History	1
Academic Foundations	(a) Introduction to College Studies	
Area Studies	(a) Aspects of Nation Building in Meiji Japan with a Historical View of the Fifth High School	1
	(b) Peoples and Cultures of the Modern Middle East	1
	(c) Multiculturalism in Southeast Asia	1
	(d) Music and Language in the Malay World	1
	(E) Social Design from Global and Local Perspectives	2
Comprehensive English Communication	(a) Comprehensive English Communication	
Technical English Communication	(a) Public Speaking, Presentation and Communication Skills	1
	(b) Great Figures in Japanese History	1
	(c) Conflicts of the Ancient World	1
	(d) Climate Change: Challenges and Solutions	1
	(E) Comparative Religions and Spiritualities in Japan	2
	(f) Reading Primary Sources; Feudal Japan	1
	(g) The Food, Water, and Energy Nexus	1
Global Career Development	(a) Global Leadership and Career Opportunities	1
	(b) Global Leader Course Career Seminar	1

(出典：GLC Web ページより)

資料Ⅱ－1－1－2 Multidisciplinary Studies の提供数について

2015年度～ グローバル教育カレッジ提供（使用言語カテゴリー3）科目履修人数推移						
開講年度	科目群総称	科目数	テーマ数	コマ数	履修人数	備考
2015	短期留学プログラム専用科目		20	20	58	対象学生は2015年度後期短期留学プログラム生（うち主にEコース在籍18名）
2015年度合計		-	20	20	58	
2016	教養教育（学際）科目		30	56	410	正規生対象
	短期留学プログラム専用科目		1	2	210	短プロ生対象
2016年度合計		-	31	58	620	
2017	教養教育Multidisciplinary Studies科目	13	28	64	694	正規生対象
	短期留学プログラム専用科目		3	7	209	短プロ生対象

(出典：国際教育課作成)

○多様な教員の確保の状況とその効果

全員が外国籍の教員であり、出身国も様々であるため、多文化交流やグローバルコミュニケーションを学ぶ上で効果的である。

○入学者選抜方法の工夫とその効果

GLC の第2次選抜（英語による集団面接など）において、グローバル教育カレッジの教員が試験官として、参加しており、英語運用能力だけでなく、コミュニケーション能力や学習意欲などを総合的に判断する工夫を行っている。

○教員の教育力向上や職員の専門性向上のための体制の整備とその効果

教育の国際通用性の向上を図ることは、大学のグローバル化を推進する戦略の一つとして極めて重要であり、特に次世代の教育・研究現場をリードする教員の英語による教授力・コミュニケーション力の向上が求められており、それらに関する研修を積極的に受講している。平成28年度には、九州大学にて開催されたクイーンズランド大学主催の研修（資料Ⅱ-1-1-3）に1名が参加した。また、グローバル教育カレッジが学内で開催している講師招へい型のグローバルFD研修（資料Ⅳ-2-6）にも、所属教員が積極的に参加しており、平成28年度に1名、平成29年度に延べ7名（内、1名は日本語・日本文化センター所属の教員）が参加した。

また、全学FD委員会の規定に従い、授業改善のためのアンケートを実施し、教務主任がとりまとめ実施報告書（教養の事務で編集発行）を作成している。年度ごとのすぐれた取り組みの紹介などを含み、教員の教育力の改善に活用している。

資料Ⅱ－1－1－3 クイーンズランド大学主催の研修について



THE UNIVERSITY OF QUEENSLAND AUSTRALIA
Create change



ICTE-UQ (クイーンズランド大学付属集中英語コース) 主催：
英語による大学/高等教育指導のためのワークショップ

CLIL (内容言語統合型学習)

この度、クイーンズランド大学付属集中英語コース (ICTE-UQ)として初となる、日本国内の大学教員、指導者を対象としたワークショップを開催致します。

ICTE-UQ について

クイーンズランド大学の付属集中英語コース (ICTE-UQ)では、約30年間にわたり日本国内の大学および各政府機関の提携パートナーに対し「指導者トレーニング」や「専門能力/職業開発」プログラムを提供してきました。

昨年、日本の大学/高等教育機関が戦略的に既存カリキュラムの国際化を図り、グローバルな展開や関係構築を推進するなか、ICTE-UQでは、特に大学教員/指導者に向けて開発されたCLIL (内容言語統合型学習) トレーニングプログラムをご提供します。

CLIL について

CLIL (内容言語統合型学習)とは、教育指導の手段として英語を活用した学習カリキュラムを実践している(または今後、希望している)英語を母国語としない教員向けの効果的な指導アプローチとして世界的に認められています。

ICTE-UQ 主催のCLILトレーニング コースは、英語で指導できる教育課程の数を増やし、学習範囲を拡張、またそのクオリティー向上を求める各国の大学/高等教育機関によって採用されるプログラムとなっています。

CLILワークショップの参加者は、実際のCLILコースに含まれる内容を体験でき、経験豊富なCLIL教員の指導者としての対話機会も設けられています。

ワークショップの詳細

11月28(月)午後2時～5時まで
東海大学 高輪キャンパス [東京]

12月1日(木)午後2時～5時まで
名城大学、ナゴヤドーム前キャンパス[名古屋]

12月6日(火)午後2時～5時まで
関西大学 千里山キャンパス [大阪]

12月9日(金)午後2時～5時まで
九州大学 箱崎キャンパス [福岡]

協賛団体:






ワークショップ講演担当者のご紹介

クイーンズランド大学付属集中英語コース (ICTE-UQ)のアシスタントディレクターを務めるPhilippa Colemanは、アジア、中南米、欧州、中東、オーストラリアの学生たちを対象とした教育マネージャー、教員育成トレーナー、TESOL言語指導者として25年以上の経験を持ちます。

お申し込み方法

無償での開催となる本ワークショップの参加者数には制限がございますので、ご予約確保のため早めのお申し込みをお薦め致します。

申込受付サイト: <https://icte.uq.edu.au/academic-japan>
メールによるお問い合わせ: marketdevelopment@icte.uq.edu.au

(出典：英語による大学/高等教育指導のためのワークショップのフライヤー)

日本語・日本文化教育センター

○教員組織編成や教育体制の工夫とその効果

日本語の専任教員は5名だったが、定年退職と転出で平成26年4月から3名となり補充されることなく教育にあたってきた。他に特定事業教員2名と15名前後の非常勤講師が毎学期授業を分担し、学部学生のための必修外国語と自由選択外国語、英語による短期留学プログラム(以上は教養教育)、日本語予備教育、サバイバル日本語クラスを実施した。教務については専任教員が3名のみのため委員会等は設置せず、2年任期で1名の専任が教務主任を担当した。教務主任は、初修外国語(日本語)部門の部門長を兼ね、実施する全ての科目の管理運営等を担当した。また元々担当している日本語研修コースの管理と指導も行った。他の2名の専任教員は、文学部日本語教育課程と日本語・日本文化研修プログラム留学生の指導を担当した。平成29年度は留学生就職促進プログラムを開始し特定事業教員1名が加わり、就職活動のためのビジネス日本語科目、日本語能力試験のためのキャリア日本語科目を開設し、教務主任が科目の管理運営を行った。教務主任を中心として教育上の諸課題やコース等全体の運営方針が効率よく実施されている。

○多様な教員の確保の状況とその効果

語学教育は少人数での授業が効果的であるが、専任教員の削減により非常勤講師等を確保して実施している。非常勤講師は年齢にも幅を持たせ、初級、中級、上級それぞれの得意領域を考慮して採用している。特に、グローバル教育カレッジ所属の日本語研修生が受講する日本語予備教育、医学部で実施するサバイバル日本語は、多様な非常勤講師を確保することで、提供している。(資料Ⅱ-1-1-4)

資料Ⅱ-1-1-4 日本語クラス担当教員一覧

14. 担当教員一覧 / List of Instructors		
【日本語担当 専任教員】		
梅田 泉	(日本語・日本文化教育センター)	umeda@kumamoto-u.ac.jp
マスデン 真理子	(日本語・日本文化教育センター)	masden@kumamoto-u.ac.jp
松瀬 成子	(日本語・日本文化教育センター)	smatsuse@kumamoto-u.ac.jp
【日本語担当 特任教員】		
鹿嶋 恵	(日本語・日本文化教育センター)	mkashima@kumamoto-u.ac.jp
吉里 さち子	(日本語・日本文化教育センター)	yoshisat@kumamoto-u.ac.jp
【日本事情 担当教員】		
坂本 英俊 (自然科学研究科)	山口 幸代 (法学部)	
浪平 隆男 (自然科学研究科)	中川 輝彦 (社会文化科学研究科)	
伊原 博隆 (自然科学研究科)	大澤 博明 (法学部)	
【日本語担当 非常勤講師】		
赤木 昌子	竹村 朋子	
岩谷 美代子	津留 紀子	
江崎 経代	中村 直美	
大庭 理恵子	日隈 智子	
片山 きよみ	平野 貞二	
古賀 美千留	船本 日佳里	
小坂 玲子	柳田 恵里子	
定永 祐子	興繩 友子	

(出典：平成 28 年度秋日本語クラス案内より)

○教員の教育力向上や職員の専門性向上のための体制の整備とその効果

全学 FD 委員会の規定に従い、教養教育の日本語部会として、授業改善のためのアンケートを実施し、教務主任がとりまとめ実施報告書(教養の事務で編集発行)を作成している。年度ごとのすぐれた取り組みの紹介などを含み、教員の教育力の改善に活用している(資料Ⅱ-1-1-5)。

さらに授業情報や教材の効率的な共有と活用のためにサーバーを確保した。教員が授業報告を入力しその内容は即座にメールで他の教員に送られる。さらに授業資料をアップロードし、教員全員が活用することで教育力の向上を目指している(資料Ⅱ-1-1-6)。

資料Ⅱ－１－１－５ 初修外国語（日本語）のアンケート実施報告書

(3) すぐれた取り組みの紹介

2016年度前期後期とも、質問7と質問10で1位を含み概ね上位となった同一の教員による「日本語 C-1a」（前期）テーマ名「上級文法 B II」および「日本語 C-2a」（後期）テーマ名「上級文法 B I」を紹介する。

質問7「あなた自身は、授業の目標をどの程度達成できたと思いますか」について、日本語 C-1a は平均が 2.125 で前期日本語科目の中で1位、日本語 C-2a は 1.923 で後期日本語科目の中で4位。また質問10「全体として、この授業はどの程度有意義だったと思いますか」について、日本語 C-1a は平均が 1.625 で前期日本語科目の中で3位、日本語 C-2a は 1.383 で後期日本語科目の中で1位であった。

自由記述から「文法の授業でしたので、あまり楽しくなかったですが、先生がとてもしんせつで良かったです。」「先生はとてもやさしいで親切です。」という回答が複数あった(原文のまま)。このような回答があるとおり、受講生に親切かつ丁寧な対応が高く評価されていることがわかる。C-1a,C-2a はどちらも講義形式の文法の授業で、会話や作文など受講生の表現活動が授業の中心のものとは異なり、達成感や満足度が高い評価は受けにくい科目である。それにも関わらず「目標の達成度」「全体としての有意義度」の高い授業となった要因として、この点が指摘できる。

またシラバスを見ると、単に文法の学習にとどめず、留学生の関心が高い日本語能力試験（JLPT）のN1との関連を明示しており、補助教材としてN1対策の資料も提供している。授業では常にN1の文法項目を確認し、N1合格への道筋を丁寧に説明、指導しているものと思われる。この点が、受講生のニーズとマッチしており高い評価へとつながっている。

(4) 総括

日本語科目の受講生は全て外国人留学生である。近年は学部正規留学生が激減し、交流協定校からの交換留学生（学部特別聴講生）が増加中で、さらに単位を必要としない大学院生や研究生の受講も多く、学内外国人数員や研究員も一部受講している。したがって受講生の日本語習熟度には大きな開きがある。そのため日本語教育部門では授業開始前に日本語のレベルを判定するプレシメントテストを導入している。初級から上級までの習熟度を1から7までのレベルで判定し、習熟度に応じた日本語クラスを留学生は受講できる。ただし教養教育の日本語クラスはレベル3以上で、それ以下はグローバル教育カレッジの実施するクラスを受講する。また、さらにどのクラスでも「読む・書く・聞く・話す」の各技能の習熟を目指すものを整備し提供している。受講生の習熟度と目的に応じた技能別日本語の学修が可能となっている。このような状況でどのクラスも大きな問題点の指摘もなく運営がなされている。これは日本語担当の専任教員、特任教員だけでなく、多くの非常勤講師の協力があってのことと考えている。心より感謝申し上げます。

(出典：「授業改善のためのアンケート」実施報告書-2016年度実施分-より)

資料Ⅱ－１－１－６ 日本語・日本文化教育センターWeb ページ

熊本大学日本語・日本文化教育センター

Welcome to KUJLC

このサイトは熊本大学に1995年留学生センターが設置されて以来、日本語研修コースを運営してきた梅田研究室が、日本語クラスの運営のために使用しています。

このサイトは、[国立情報学研究所](#)が開発したNetCommons2を使用しています。

NetCommonsの特徴は[こちら](#)をご覧ください。
NetCommons2のユーザーマニュアルは[こちら](#)、管理者マニュアルは[こちら](#)です。

現在、別サーバーで、NetCommonsの最新バージョンであるNetCommons3 (NC3) の起ち上げを準備しています。
熊本大学で日本語を学ぶ留学生向けのサイトを構築します。

Powered by NetCommons The NetCommons Project

(出典：<https://kujlc.org/>)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

多様な教員を確保し、様々な授業を提供している。また、FD研修や授業改善のためのアンケートを授業改善に活用しているため。

観点 1-2 教育内容・教育方法

(観点に係る状況)

グローバル人材教育センター／オープン教育センター

○体系的な教育課程の編成状況

学部生や留学生向けに Multidisciplinary Studies (資料Ⅱ-1-1-1) を提供している。Multidisciplinary Studies は、教養教育の選択科目として位置づけられる科目で、グローバル教育カレッジの教員が英語で授業を実施するものである。

また、GLC 生向けの GOKOH School Program (Academic Skill を身に付けるグローバル学修プログラム及び Human Skill を身に付けるグローバル課外教育プログラムの2つの区分からなる教育プログラム) において、中核的な役割を担っている (資料Ⅱ-1-2-1)。

グローバル学修プログラムにおいては、教養教育の提供を行っており、前述した Multidisciplinary Studies を選択必修科目とするだけでなく、GLC 生向けに独自の必修科目も提供している。

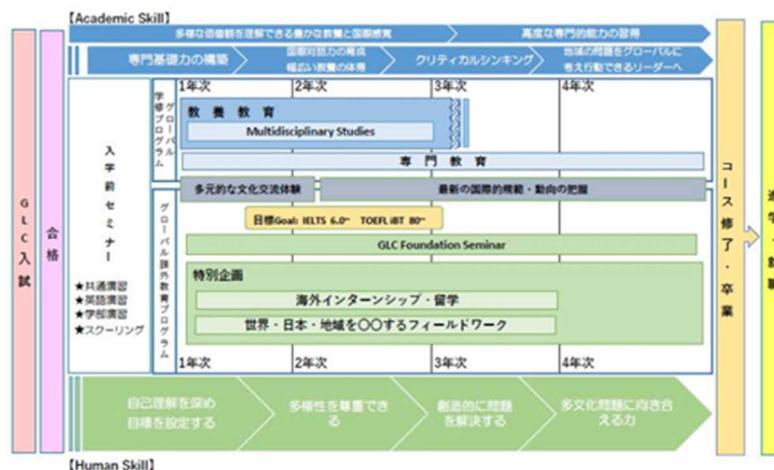
グローバル課外教育プログラムは、毎週定期的実施する「GLC Foundation Seminar」と不定期に実施する「Special Project」で構成されている。「GLC Foundation Seminar」には、グローバル教育カレッジの教員により実施される、GLC 生のための特別プログラムであり、様々なテーマでのグループディスカッションや英語によるプレゼンテーションなどを行っている。「Special Project」は、合宿研修、留学生との異文化交流体験、海外短期留学及び海外インターンシップを行っている。

資料Ⅱ-1-2-1 GOKOH School Program について

GOKOH School Program

「GOKOH School Program」は、大きく分けて、「グローバル学修プログラム」と「グローバル課外教育プログラム」の2つの区分からなります。

*GOKOH School Program Image



(出典：GLC Web ページより)

○社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

Multidisciplinary Studies は、単なる対面講義にとどまらず、交流、対話、実習、グループディスカッション、プレゼンテーションやピア・ラーニング（受講者同士が協働で学ぶ活動）など、双方向性を取り入れて行っており、留学生を含む多様な学生が参加し、文化や言葉の壁を越えて学び合うこと、協力し合うことを重視している。

また、生涯学習のニーズに対して、授業開放科目を提供している。平成 28 年度は、9 科目、平成 29 年度は、6 科目を提供している（資料Ⅱ-1-2-2）。

資料Ⅱ-1-2-2 授業開放科目一覧

The image shows a page from a course catalog with four course listings. Each listing includes the course number and title, the instructor's name and affiliation, the credit value, and a detailed description of the course content. The courses are: K29 Music and Humanity (instructor: CHAN CHEONG JAN), K30 Woman and Family in Japan (instructor: I-CHUN CHEN), K31 Statistics (instructor: I-CHUN CHEN), and K32 Peoples and Cultures of the Modern Middle East (instructor: JOSEPH RICKARD). The page also features a navigation bar on the right and a footer with university logos and contact information.

(出典：熊本大学授業開放 2016 秋より)

○国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

Multidisciplinary Studies は、教養教育の選択科目に位置づけられる科目で、基本的にグローバル教育カレッジの教員が英語で授業を実施する。本科目における学修内容は複数の学問領域に関わり、受講者は現代社会が提起する問題をグローバルな視点から総合的に考える力を身につけることができる。また、英語で行われる授業を留学生などと共に学ぶことにより、受講者は、留学しているかのような学修環境に身を置くことで、視野を広げ、柔軟かつ論理的な思考力・分析力・英語コミュニケーション力を高めることができる。

さらに、Multidisciplinary Studies の多くの科目に、4ターム制を導入しており、国際通用性のある柔軟な履修ができるよう工夫されている。

○養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫

グローバル課外教育プログラムは、毎週定期的実施する「GLC Foundation Seminar」と不定期に実施する「Special Project」で構成されている（資料Ⅱ-1-2-3）。

本プログラムは、授業だけでは修得が難しい、または授業の補足として、実際に考え・行動することで、クリティカル・シンキング、国際対話力、情報発信力、創造的知性及びリーダーシップを培うことを目的としている。グローバル教育カレッジの教員による、GLC生のための特別プログラムであり、GLC生のアイデンティティを醸成し、結束を強めるために大切な活動である。このプログラムでは、正規の授業だけでは修得できない Human Skill を、留学生との交流、海外留学、インターンシップなどを通じて体得できるよう工夫している。なお、平成 29 年度においては、インドネシアのスラバヤ工科大学における海外短期留学プログラム（資料Ⅱ-1-2-4）や株式会社 杉養蜂園の協力の下、中国の香港における海外におけるインターンシップ（資料Ⅱ-1-2-5）を実施し、参加学生の英語力向上だけでなく、異文化体験やリーダーシップの養成などの効果があった。

資料Ⅱ-1-2-3 グローバル課外教育プログラム実施内容について

GLC Foundation Seminar (Term1-2 実施)		
(a) 第1ターム: University Orientation		
4月12日(木)	初回ガイダンス(30分) Initiation Ritual Ceremony	新入生ガイダンス(60分) GLC生を4グループに分け、4週にわたり以下の内容を学習する。
4月19日(木)	基礎講義「大学の歴史」(30分) History of the Campus ・熊本大学の歴史を英語で学び、知識を深める。	・図書館見学 (主に英文書籍を中心に) ・埋蔵文化財調査センターの見学
4月26日(木)	基礎実習「ボディーパーカッション」(30分) Body percussion session ・GLC生のチームビルディングおよびカレッジへの帰属意識を高め、結束を強める実習。	・ディスカッション ・メディアアクティビティ
5月10日(木)	イベント(30分) Time Capsule ・20年後の熊本大学の学生(GLC生)に宛てて、英語で手紙を書く。	
5月17日(木)	カレッジ講義①「文化の保存と活性化に関わる伝統と変化」 Tradition and change in involved in culture preservation and revitalization ・世界における文化の保存や活性化について学習し、グループでディスカッションすることで更に思考を深める。	
5月24日(木)	カレッジ講義②「市民社会を通じた地域社会の強化」 Community Strengthening through Civil Society ・市民社会の現状について学び、地域との関係性の強化をはかるにはどうすればいいか、グループディスカッションにより深く考える。	
5月31日(木)	多様性学習イベント Concert: Twinkle Cats ・障がい者による演奏グループ「トゥインクル・キャッツ」及び「オハイエクまもと」と交流することで、多様性は国籍の違いだけではなく、身近なところにもあるということを知り、グローバルリーダーシップに求められる人格の一つであるエンパシー(empathy)について身を持って学ばせる。	

平成 29 年度 グローバル課外教育プログラム - Special Project 実施内容	
1) 合宿	日時：平成 29 年 6 月 17 日(土)～18 日(日) 場所：熊本県立芦北青少年の家 内容：水俣病について、3カ所(水俣病資料館、相思社、ほっとはうす)の施設を利用し、フィールドワークを実施。また、芦北青少年の家ではチームビルディングアクティビティや、グループごとのプレゼンテーション準備などに取り組んだ。
2) 海外インターンシップ	日時：平成 29 年 8 月 15 日(火)～22 日(月) 場所：中国・香港 共催：株式会社 杉養蜂園 内容：中国の香港で実施される HKTD Food Expo にて、(株)杉養蜂園が出展するブースでの海外就業体験を実施した。グローバルリーダーコース生 6 名が参加した。
3) 海外短期留学	日時：平成 30 年 2 月 19 日(月)～3 月 4 日(日) 場所：インドネシア・スラバヤ 潜在先：スラバヤ工科大学 (ITS) 内容：グローバルリーダーコース専用プログラムとしてスラバヤ工科大学で実施した本プログラムは、一般的な語学研修とは異なり、英語を使って現地の学生と共に「グローバルリーダーとはどういう存在か」を学び、また問題解決型演習(PBL)に取り組む発展的な内容となっている。本プログラムはグローバルリーダーコース専用科目の単位認定対象であり、また本学より支援金の補助も実施した。

(出典：平成 29 年度 グローバル課外教育プログラム実施内容より)

資料Ⅱ－１－２－４ 海外短期留学（インドネシア・スラバヤ）について

海外短期留学（インドネシア・スラバヤ）

平成30年2月19日（月）から2週間、インドネシアのスラバヤ工科大学にて、海外短期留学を行いました。本プログラムはグローバルリーダーコース専用で、通常の語学研修とは異なり、現地での講義や課題解決学習(PBL)中心の内容で実施されました。

グローバルリーダーコースからは20名の学生（文学部：1名、法学部：3名、理学部：5名、工学部：11名）が参加し、スラバヤ工科大学の学生と共にリーダーシップについて学習しました。また、実際にスラバヤで起こっている問題を題材に、解決策を考えるフィールドワークによる学習にも取り組みました。



(スラバヤ工科大学副学長と各代表学生)



(在スラバヤ日本国総領事館訪問)



(講演「スラバヤで活躍する日本人から学ぶリーダーシップ」の様子)



(プロジェクト発表の様子)



(伝統の踊りを習う様子)



(全員で集合写真)

(出典：GLC Web ページより)

資料Ⅱ－１－２－５ 海外インターンシップ（中国・香港）について

海外インターンシップ（中国・香港）

平成29年8月15日（水）から1週間、中国の香港にてインターンシップを行いました。グローバル教育カレッジの支援企業である「株式会社 伊藤洋行」の協力のもと実施した本プログラムでは、中国のKFC Food Expoに参加し、企業ブースで実務の経験を体験しました。

グローバルリーダーコースからは6名の学生（文学部：3名、法学部：1名、理学部：1名、工学部：1名）が参加し、ブースは顧客に対する商品の説明や販売補助を通して、自身の英語力を磨くとともに、リーダーシップを養成しました。

実地研修中、参加した学生たちは接客態度において、積極的に現地スタッフとコミュニケーションを取り、同僚的に行動していました。また、プログラムの後半には、お茶会での打ち合わせとグループでの振り返りによって、実務経験を共有されました。

本プログラムは、参加した学生たちにとって大変有意義で、学びの多い時間となりました。



(接客の様子)



(接客の様子)



(出典：GLC Web ページより)

○学生の主体的な学習を促すための取り組み

GLC への入学予定者のモチベーションの維持・向上や大学での学びへの動機付け、学生が入学した後の大学・学部教育についての不安の解消などを目的に、Pre-GOKOH School Program (入学前セミナー)として Web を利用した自宅学習及び実際に熊本大学に来るスクーリングを実施している(資料Ⅱ-1-2-6)。

平成30年度入学予定者に対しては、4日間のスクーリングにおいて、文系講話や理系講話により、大学での学習がどういったものかを学んだり、英語演習や学部演習により実際の大学の授業形式で講義を受講したりした。特に英語演習は、グローバル教育カレッジ教員によるインタラクティブな講義形式で、実際にグループディスカッション等を英語で行い、グループごとにプレゼンテーションを行った(資料Ⅱ-1-2-7)。

資料Ⅱ-1-2-6 Pre-GOKOH School Program (入学前セミナー) について

2017 グローバルリーダーコース Pre-GOKOH School Program (入学前セミナー) 実施要項																																																																											
<p>1. 目的 グローバルリーダーコース入学予定者(入学手続完了者)に対し、Web を利用しての自宅学習及びスクーリングを行うことで、入学予定者のモチベーションの維持・向上や大学での学びへの動機付け、学生が入学した後の大学・学部教育についての不安の解消(履修指導含む)を目的とする。</p> <p>2. 対象者 平成30年度グローバルリーダーコース入学予定者(入学手続完了者)</p> <p>3. 実施方法 Web (Moodle 等) を利用しての自宅学習及びスクーリング ※Moodle:熊本大学オンライン教育システム</p> <p>4. 実施日程 (1) 自宅学習 第1回スクーリングから入学まで (2) スクーリング 1) 場 所 熊本大学グローバル教育カレッジ棟および各学部 2) 日 時 第1回スクーリング 平成29年11月12日(日) 9:30~17:30 第2回スクーリング 平成29年12月10日(日) 9:30~17:00 第3回スクーリング 平成30年03月17日(土) 9:30~17:00 18日(日) 9:30~15:00 3) 日程表 裏面のとおり</p> <p>5. 実施内容 (1) グローバルリーダーコース共通演習 ・自宅学習: Web(Moodle)等で課題を提示し、レポートを提出させる。 ・スクーリング: グループワーク等 (2) 英語演習 ・自宅学習: Web を利用しての自宅学習、レポート課題 ・スクーリング: 講義やグループディスカッション等 (3) 学部演習 ・自宅学習: Web(Moodle)等で課題を提示し、レポート等を提出させる。 ・スクーリング: 自宅学習でのレポート等に対する指導及び講義等 (4) 高等学校等における勉強の継続(大学入試センター試験の受験など)</p> <p>6. その他 グローバル教育カレッジが実施する行事、イベント等については別途案内をおこなう。 (任意参加)</p> <p>7. 連絡先 相談や不明な点等ありましたら、以下へお問い合わせください。 出席が難しい場合は必ず事前にご連絡ください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>熊本大学学生支援部国際教育課(担当:坂本、長倉) TEL:096-342-2093 MAIL:glc@jimu.kumamoto-u.ac.jp</p> </div>	<p>1. 第1回スクーリング 11月12日(日) 9:30~</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>プログラム名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>9:00~</td><td>受付</td></tr> <tr><td>9:30~9:40</td><td>開講式</td></tr> <tr><td>9:40~10:10</td><td>全体ガイダンス</td></tr> <tr><td>10:10~10:40</td><td>全体講話</td></tr> <tr><td>10:40~11:00</td><td>移動・休憩</td></tr> <tr><td>11:00~12:00</td><td>Moodle 等システムの利用方法説明</td></tr> <tr><td>12:00~13:00</td><td>昼休み(昼食)</td></tr> <tr><td>13:00~14:30</td><td>英語演習①</td></tr> <tr><td>14:30~14:40</td><td>諸連絡</td></tr> <tr><td>15:00~17:30</td><td>学部別ガイダンス ※学部により終了予定時間が異なります※ (文) 15:00~17:00 (法) 15:00~17:00 (理) 15:00~16:00 (工) 15:00~17:30</td></tr> </tbody> </table> <p>2. 第2回スクーリング 12月10日(日) 9:30~</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>プログラム名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>9:00~</td><td>受付</td></tr> <tr><td>9:30~9:40</td><td>諸連絡</td></tr> <tr><td>9:40~10:20</td><td>文系講話</td></tr> <tr><td>10:20~10:30</td><td>休憩</td></tr> <tr><td>10:30~12:00</td><td>共通演習①</td></tr> <tr><td>12:00~13:00</td><td>昼休み(昼食)</td></tr> <tr><td>13:00~14:30</td><td>英語演習②</td></tr> <tr><td>14:30~14:40</td><td>諸連絡</td></tr> <tr><td>15:00~17:00</td><td>学部別演習①</td></tr> </tbody> </table> <p>3. 第3回スクーリング 3月17日(土)・18日(日) 9:30~</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>17日(土) プログラム名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>9:00~</td><td>受付</td></tr> <tr><td>9:30~9:40</td><td>諸連絡</td></tr> <tr><td>9:40~10:20</td><td>理系講話</td></tr> <tr><td>10:20~10:30</td><td>休憩</td></tr> <tr><td>10:30~12:00</td><td>英語演習③</td></tr> <tr><td>12:00~13:00</td><td>昼休み(昼食)</td></tr> <tr><td>13:00~14:30</td><td>英語演習④</td></tr> <tr><td>14:30~14:40</td><td>諸連絡</td></tr> <tr><td>15:00~17:00</td><td>学部別演習②</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>18日(日) プログラム名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>9:00~</td><td>受付</td></tr> <tr><td>9:30~12:00</td><td>英語演習⑤</td></tr> <tr><td>12:00~13:00</td><td>昼休み(昼食)</td></tr> <tr><td>13:00~15:00</td><td>共通演習②</td></tr> <tr><td>15:00~</td><td>諸連絡・解散</td></tr> </tbody> </table>	時間	プログラム名	9:00~	受付	9:30~9:40	開講式	9:40~10:10	全体ガイダンス	10:10~10:40	全体講話	10:40~11:00	移動・休憩	11:00~12:00	Moodle 等システムの利用方法説明	12:00~13:00	昼休み(昼食)	13:00~14:30	英語演習①	14:30~14:40	諸連絡	15:00~17:30	学部別ガイダンス ※学部により終了予定時間が異なります※ (文) 15:00~17:00 (法) 15:00~17:00 (理) 15:00~16:00 (工) 15:00~17:30	時間	プログラム名	9:00~	受付	9:30~9:40	諸連絡	9:40~10:20	文系講話	10:20~10:30	休憩	10:30~12:00	共通演習①	12:00~13:00	昼休み(昼食)	13:00~14:30	英語演習②	14:30~14:40	諸連絡	15:00~17:00	学部別演習①	時間	17日(土) プログラム名	9:00~	受付	9:30~9:40	諸連絡	9:40~10:20	理系講話	10:20~10:30	休憩	10:30~12:00	英語演習③	12:00~13:00	昼休み(昼食)	13:00~14:30	英語演習④	14:30~14:40	諸連絡	15:00~17:00	学部別演習②	時間	18日(日) プログラム名	9:00~	受付	9:30~12:00	英語演習⑤	12:00~13:00	昼休み(昼食)	13:00~15:00	共通演習②	15:00~	諸連絡・解散
時間	プログラム名																																																																										
9:00~	受付																																																																										
9:30~9:40	開講式																																																																										
9:40~10:10	全体ガイダンス																																																																										
10:10~10:40	全体講話																																																																										
10:40~11:00	移動・休憩																																																																										
11:00~12:00	Moodle 等システムの利用方法説明																																																																										
12:00~13:00	昼休み(昼食)																																																																										
13:00~14:30	英語演習①																																																																										
14:30~14:40	諸連絡																																																																										
15:00~17:30	学部別ガイダンス ※学部により終了予定時間が異なります※ (文) 15:00~17:00 (法) 15:00~17:00 (理) 15:00~16:00 (工) 15:00~17:30																																																																										
時間	プログラム名																																																																										
9:00~	受付																																																																										
9:30~9:40	諸連絡																																																																										
9:40~10:20	文系講話																																																																										
10:20~10:30	休憩																																																																										
10:30~12:00	共通演習①																																																																										
12:00~13:00	昼休み(昼食)																																																																										
13:00~14:30	英語演習②																																																																										
14:30~14:40	諸連絡																																																																										
15:00~17:00	学部別演習①																																																																										
時間	17日(土) プログラム名																																																																										
9:00~	受付																																																																										
9:30~9:40	諸連絡																																																																										
9:40~10:20	理系講話																																																																										
10:20~10:30	休憩																																																																										
10:30~12:00	英語演習③																																																																										
12:00~13:00	昼休み(昼食)																																																																										
13:00~14:30	英語演習④																																																																										
14:30~14:40	諸連絡																																																																										
15:00~17:00	学部別演習②																																																																										
時間	18日(日) プログラム名																																																																										
9:00~	受付																																																																										
9:30~12:00	英語演習⑤																																																																										
12:00~13:00	昼休み(昼食)																																																																										
13:00~15:00	共通演習②																																																																										
15:00~	諸連絡・解散																																																																										

(出典:2017 グローバルリーダーコース Pre-GOKOH School Program(入学前セミナー)実施要領より)

資料Ⅱ－1－2－7 平成29年度実施のPre-GOKOH School Programについて

Pre-GOKOH School Program(入学前セミナー)

平成30年度入学予定者を対象に、Pre-GOKOH School Program（入学前セミナー）としてWebを利用した自宅学習と、実際に熊本大学に来るスクーリングを実施しました。スクーリングは平成29年11月12日（日）、12月10日（日）、および平成30年3月17日（土）、18日（日）の3回（計4日間）で主にグローバル教育カレッジ棟において実施しました。

スクーリングでは、文系講話や理系講話により、大学での学習がどういったものなのか学んだり、英語演習や学部演習により実際の大学の授業形式で講義を受講したりしました。特に英語演習は、グローバル教育カレッジ教員によるインタラクティブな講義形式で、実際にグループディスカッション等を英語で行い、グループごとにプレゼンテーションを行いました。また、共通演習として「マシュマロチャレンジ」を行いました。各グループで、パスタを利用していかに高い塔を作るかという、チームビルディング課題に挑戦しました。



(文系講話の様子)



(理系講話の様子)



(英語演習の様子)



(手伝いに来た1期生たち)



(共通演習の様子)



(マシュマロチャレンジの様子)

(出典：GLC Web ページより)

また、グローバル教育カレッジの教員と英会話ができる授業外活動 english-TALKmon を実施し、学生の主体的な学修を促している（資料Ⅱ-1-2-8）。

平成28年度に延べ520人（留学生含む）、平成29年度に延べ595人（留学生含む）が参加し、日本人学生の英語強化だけでなく、日本人学生と留学生が交流する機会の提供にもなっている。



音からイングリッシュ・トーク
モンで英語力UP!

グローバル教育カレッジ主催 授業外英語活動

english-TALKmon

イングリッシュ・トークモン



english-TALKmonは全ての熊本大学の学生を対象に、英語でコミュニケーションする力を向上させるために実施する活動です。

この活動は、学生が気軽にグローバル教育カレッジに集まり、教員と英語で対話する機会を提供します。英語によるフリートークが中心ですが、下記時間割のテーマを目的別に選んで参加することができます。

事前予約は必要ありません。時間割通りに、カレッジ棟1D教室へ直接来て下さい。
ランチタイムは40分間、午後の活動時間は基本的に60分間の予定ですが、担当教員の判断により延長する場合があります。

**ランチタイムは
教職員も参加
OK!**



■期間および実施時間割：第1ターム(4月10日(月)～6月9日(金))

第1ターム : Term1 (4/10-6/9)

	月		火		水		木		金	
	テーマ	担当教員	テーマ	担当教員	テーマ	担当教員	テーマ	担当教員	テーマ	担当教員
ランチタイム・フリートーク Lunch time Session 12:00-12:40	フリートーク Free talk	Muir	フリートーク Free talk	Kaika	フリートーク Free talk	Johnson			フリートーク Free talk	Rickard
アフタヌーン・フリートーク Afternoon Session 16:10-17:10	フリートーク Free talk	Johnson or Rickard							フリートーク Free talk	Kaika or Muir

■場 所: グローバル教育カレッジ棟1F 1D教室

■受講条件: 本学在籍中の全ての学生
(※ランチタイムは、教職員も参加可能)

■備 考: 各担当教員の活動内容詳細については、下記窓口へお問い合わせ下さい。

■問合せ先: グローバル教育カレッジ
(グローバル教育カレッジ棟 1F事務室)
email: glc@jimmu.kumamoto-u.ac.jp
tel: 096-342-2092

■参考URL: <http://www.c3.kumamoto-u.ac.jp/center/global/>



グローバル教育カレッジ棟1F事務室



↑グローバル教育カレッジ
ホームページQRコード

英語力レベルは
問いません!

(出典：グローバル教育カレッジ Web ページより)

日本語・日本文化教育センター

○体系的な教育課程の編成状況

留学生の身分は、学部学生、大学院生の他、日本語研修生、交換留学生など、様々である。そのうえ日本語のレベルも初級から上級まで幅が極めて広い。また、日本語学習目的もサバイバルのための日本語、アカデミックな内容を学ぶ日本語、就職活動やビジネスを学ぶための日本語等と多様化している。これら全てに対応した体系的な授業科目を毎学期編成し留学生に提供している(資料Ⅱ-1-2-9)。

また、文学部日本語教育課程の中で、日本語教育学概論から日本語教育基礎、日本語教育演習まで、体系的な講座も提供している。

資料Ⅱ-1-2-9 留学生向け日本語クラス一覧

4. クラス一覧							
【日本語科目(U)】							
レベル	授業科目名	授業コード	授業テーマ	担当	曜・時	単位数	シラバス
* 必修 科目	5-6 日本語A-2a	04311	上級口語表現Ⅰ	マスデン	水・3	2B	p.25
	5-6 日本語A-2a	04312	上級口語表現Ⅰ	吉賀	水・3	2A	p.25
	5-6 日本語A-2b	04313	上級レポート作成法	マスデン	水・1	3C	p.28
	5-6 日本語A-2b	04314	上級レポート作成法	廣嶋	水・3	3C	p.28
	5-6 日本語B-2a	04331	上級読解・聴解Ⅰ	中村	月・2	3C	p.27
	5-6 日本語B-2a	04332	上級読解・聴解Ⅰ	中村	金・2	3C	p.27
	5-6 日本語B-2b	04333	上級文法AⅠ	松瀬	水・2	3C	p.28
	5-6 日本語C-2a	04351	上級文法BⅠ	廣嶋	水・2	3C	p.29
	5-6 日本語A-1b	04305	実用文章表現	梅田	水・1	3C	p.30
	5-6 日本語A-1b	04306	実用文章表現	中村	水・2	3C	p.30
	5-6 日本語C-2a	04366	上級読解AⅠ	津波	水・3	2D	p.31
	5-6 日本語C-2b	04368	上級読解BⅠ	吉賀	月・3	3C	p.32
	5-6 日本語IV-2a	06248	上級総合Ⅰ	廣嶋	水・2	2D	p.33
	5-6 日本語IV-2b	06249					
	4-5	日本語IV-2a	06241	中上級総合	廣嶋	水・1	2D
日本語IV-2b		06242					
日本語IV-2c		06243					
日本語IV-2f		06251					
日本語IV-2d		06244					
4-5 日本語IV-2e	06245	中上級文法・表現Ⅰ	竹村	水・3	3C	p.35	
4-5 日本語IV-2e	06245	中上級漢字・聴解Ⅰ	松本	月・2	2D	p.36	
4-5 日本語IV-2f	06246	中上級読解Ⅰ	津波	水・3	2D	p.37	
4	日本語III-2a	06201	中級総合B	松本	月・1	2B	p.38
	日本語III-2b	06202					
	日本語III-2c	06203					
	日本語III-2d	06204					
	日本語III-2e	06205					
4 日本語III-2f	06206	中級作文	中野	水・2	2D	p.39	
4 日本語III-2f	06214	中級作文	松瀬	水・2	2B	p.39	
4 日本語III-2g	06207	中級漢字・聴解Ⅰ	津波	水・4	3C	p.40	
4 日本語III-2h	06208	中級文法・表現Ⅰ	高木	水・2	2D	p.41	
4 日本語III-2i	06213	中級会話Ⅰ	岩谷	水・3	2D	p.42	
4 日本語III-2j	06209	中級会話Ⅰ	高木	水・3	3B	p.42	
4 日本語III-2k	06210	中級読解Ⅰ	中野	水・3	2B	p.43	
3-4	日本語III-2a	06161	中級総合A	吉賀	月・2	3B	p.44
	日本語III-2b	06162					
	日本語III-2c	06163					
	日本語III-2d	06164					
	日本語III-2e	06165					
3 日本語I-2a	06121	初級総合	梅田	水・4	2D	p.45	
3 日本語I-2b	06122						
3 日本語I-2c	06123	初級文法・表現	松瀬	月・3	2B	p.46	
3 日本語I-2d	06124	初級漢字・聴解	中野	水・3	2C	p.47	

*「必修外国語科目」「自由選択外国語科目」の区別は(U)(5参照)以外の学生には関係ありません。

(出典：平成28年度秋日本語クラス案内より)

○社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

外国人を積極的に採用しようとする企業が増える中で、本学は、平成29年度に文部科学省「留学生就職促進プログラム」に採択され、熊本県、県内の経済団体等と連携し、日本に就職を希望する留学生の就職を支援している。日本語・日本文化教育センターにおいては、ビジネス日本語クラスを開設し、本事業の中核的な役割を担っている(資料Ⅱ-1-2-10)。

また、日本語能力試験のための日本語クラスや、能力試験直前の対策講座も開設した(資料Ⅱ-1-2-11)。

さらに、留学生だけでなく家族(配偶者)の受講を認める日本語講座を、平成30年2月に開設した(資料Ⅱ-1-2-12)。

留学生受入の促進

H29年度文科省「留学生就職支援プログラム」に採択
外国人留学生が日本・熊本に定着できる教育プログラムを編成



学系、知る、働く！
CDP+K
Kumamoto University
Career Development Program

Kumamoto University Career Development Program
—熊本のIoT企業から全国への展開—

- ◆ 留学生に「ビジネス日本語教育」「キャリア教育」「インターンシップ」「就職セミナー」等の教育プログラムを実施
- ◆ グローバル人材の採用を求めている熊本県内企業との積極的なマッチングを実施
- ◆ 熊本県やIT関連企業等で組織された3つの経済団体と連携し、留学生と県内企業との結びつきを強化し、企業就職を実現

留学生就職促進コンソーシアム
留学生の県内外企業への就職支援体制の構築

熊本大学 教育プログラム

【留学生就職推進室】

- ◆ 留学生のためのキャリア相談室を新設
- ◆ 留学生の就職やモチベーション向上のため、「日本での就職」がイメージできる授業
- ◆ 「電子カルテ」による留学生の学習管理及びコーディネーターによる親切丁寧な指導
- ◆ 留学生が企業情報・就職情報を収集し、自主的に学習できるキャリアトレーニングスタジオやラーニングコモンズ

熊本県

「IoT推進ラボ」における実践的学修機会を提供
インターンシップ先企業の開拓

熊本県情報サービス産業協会
熊本県工業連合会
熊本県社会・システムITコンソーシアム

県内企業へのインターンシップ受け入れや就職活動の拡大
ビジネス日本語・キャリア支援・就職セミナー等への講師派遣
教育プログラムへの助言

就職までのイメージ
留学生が日本企業・産業構造を理解し、県内外企業への就職促進・国内定着

日本国内・県内への就職実現

知識経験が活かせる就職活動

将来が見えてくる就職セミナー

成果を求めるインターンシップ

独自性の高いキャリア教育

実践的なビジネス日本語能力の習得

外国人留学生

本事業が生み出す好循環
多様な取り組みが目的である「就職者増加」を実現し、それがさらなる職場の高産化を生んでいく

◆ 日本語能力、リーダーシップ、コミュニケーション力等の向上がビジネス対応力や地域貢献意識を高める。

◆ 県や経済団体との連携によりインターンシップ参加企業・雇用企業を拡大。

留学生の県内・国内就職者数増加

目標数 県内(県内)

H29 13人(3人)

H30 15人(5人)

H31 30人(15人)

H32 45人(25人)

H33 65人(45人)

外国人留学生の修学・就職環境の高産化

就職促進コンソーシアムによる循環の活性化

◆ 留学生課室、電子カルテ活用等によりPDCAサイクルを確立、教育の質保証を担保する。

◆ 留学生就職推進室、就職セミナー、企業マッチング等による支援体制の高産化を図る。

留学生受入の促進

企業が求める能力・人材

企業理解 / コミュニケーション力 / ビジネス日本語力
課題解決力 / 文化・慣習理解

熊本大学の実践教育と支援体制

入学時から就職後のフォローアップまで「日本語教育」と「キャリア教育」の両面でサポート。

【日本語教育】 フォローアップ【キャリア教育】

就職内定 就職活動

ビジネス日本語基礎Ⅳ

ビジネス日本語文系Ⅱ・理系Ⅱ

ビジネス日本語文系Ⅰ・理系Ⅰ

ビジネス日本語基礎Ⅰ・Ⅱ

ビジネス日本語入門Ⅰ・Ⅱ

就職セミナー等

インターンシップ

安全安心教育
企業文化・福利厚生
ベンチャー教育

キャリア科目
・地方創生企業戦略論
・インターンシップ等

肥後熊本大学
・まちづくりと地域課題
・熊本の芸術文化
・医療と社会 等

ビジネス日本語教育プログラム

N3～N1レベルまで対応。文系・理系別の専門性を考慮したビジネス日本語教育を提供。

- ◆ 新規に10科目開講し、平成30年度後期からすべて単位化
- ・ ビジネス日本語入門Ⅰ・Ⅱ
- ・ ビジネス日本語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- ・ ビジネス日本語文系Ⅰ・Ⅱ
- ・ ビジネス日本語理系Ⅰ・Ⅱ

本プログラムの特徴のひとつとして、交換留学生にも教育の機会を提供し、大学院入学支援を行っています。

キャリア教育プログラム

体系的に学修することのできる実践的なキャリア教育の実施。

- ◆ 肥後熊本大学(教養教育科目・全学必修科目)やキャリア科目(教養教育科目・選択必修科目)
- ◆ 企業文化や安全安心教育、ベンチャー教育
- ◆ 活躍中の社会人、留学生 OBOG 等による講義
- ◆ IoT推進ラボと連携した課題解決型インターンシッププログラム
- ◆ 就職セミナーの開催～日本での就職活動に必要なスキルの習得
- ◆ 企業人事担当者・留学生 OBOG との交流会

サポート

留学生就職推進室

サポート

(出典：SGU シンポジウム発表資料より)

資料Ⅱ－１－２－１１ 日本語能力試験対策講座

日本語能力試験対策講座 (模擬試験)

12月3日に実施される日本語能力試験受験者を対象に、直前対策講座を実施します。本試験と同じ雰囲気の中で模擬試験を受験することで、現在の自分自身のレベルや苦手分野を知り、本試験までの有効な学習計画が立てられます。

- ・ 実施日: 11月18日・25日(土) ※どちらか1日だけの受講もOKです。
- ・ 時間: 午後1:00～午後5:00
- ・ 教室: グローバル教育カレッジ棟 1A教室(N1コース)
1B教室(N2コース)
- ・ 対象: 12月3日(日)の能力試験(N1・N2)受験者

受講希望者は11月15日(水)午後5時までに国際教育課で申し込んで下さい。

※申し込みには受験票など、12月3日の試験を受験することが証明できるものが必須です。

能力試験に合格することは、日本での就職または進学に必要な前提条件となります。積極的に受講し、N1・N2合格を目指しましょう！



(出典: <https://cdpk.kumamoto-u.ac.jp/>)

資料Ⅱ－１－２－１２ 日本語講座

にほんごこうざ
日本語講座
**Japanese Language Course
for Beginners**

Kumamoto University will start a special Japanese Language Course for beginners which is open to the university students/faculty/researchers and their spouses. If you could not join in this course this February or Elementary Japanese class this semester, please apply.

Period: May 21 to July 5, 2018

Day and Time: Mondays and Thursdays 10:00AM～12:00PM
*No classes on June 11 and 14.

Place: Classroom 1C on the 1st floor of the College of Cross-Cultural and Multidisciplinary Studies (Kumamoto University Kurokami North Campus)

Eligibility: Those who satisfy all the following conditions.

- (1) Have not learned Japanese before and understand basic English.
- (2) Are Kumamoto University Student/Faculty/Researchers or their spouses.
- (3) Can attend all 12 classes.

Fixed Number: up to 10 people
*There will be a selection if the number of application exceed the capacity.

Fee: FREE (Textbooks (around 2,000 yen) must be purchased by participants)

Level: Beginner

Application Deadline: May 17(Thu.) 5:00 p.m.

How to Apply:
Download the form at the following website: <http://www.c3.kumamoto-u.ac.jp/en/4217/>
Please submit the application form by email to glc@jimu.kumamoto-u.ac.jp

Contact: College of Cross-Cultural and Multidisciplinary Studies
TEL: 096-342-2091 Email: glc@jimu.kumamoto-u.ac.jp

(出典: <http://www.c3.kumamoto-u.ac.jp/3854/>)

○国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

日本語科目を紹介する「日本語クラス案内」では、英語ページを用意し、日英による説明で国際通用性を確保している。

○養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫

留学生就職支援プログラムにより、ビジネス日本語や日本語能力試験のための科目を開講し多くの留学生が参加した。また、ビジネス日本語では、外部講師を招いた実践的な講義や、エントリーシート等の準備のためのアクティブラーニングの手法も取り入れた授業を行った。

○学生の主体的な学習を促すための取り組み

毎学期、日本語科目は留学生数や留学生のレベル、出身国等の情報を吟味し、その科目構成、内容をセメスターごとに修正し、主体的積極的な学びを促した。

文学部の学生を対象に行っている日本語教育課程では、希望する学生に対し、海外での日本語教育研修プログラムを実施している。平成 28 年度はコンケン大学（タイ）及びアイルランガ大学（インドネシア）で実施した。（資料Ⅱ-1-2-13）。

資料Ⅱ-1-2-13 日本語教育研修プログラム実施報告書

2016 年度アイルランガ大学日本語教育研修プログラム実施報告

2016 年 10 月
グローバル教育カレッジ
日本語・日本文化教育センター

期間：2016 年 9 月 18 日(日)～9 月 26 日(月)

研修地：国立アイルランガ大学人文学部日本研究学科（インドネシア・スラバヤ）

参加者：1 名

	文学部	文学科	3	女
--	-----	-----	---	---

(当初 2 名の応募者がいたが、1 名辞退)

研修内容：1) 日本語教育実習
授業見学、授業補佐 (TA)、教壇授業など
2) インドネシア文化体験、インドネシア学生との交流活動 (熊本・熊本大学の紹介)

奨学金：70,000 円 (JASSO)

<事前研修>

第 1 回 6 月 24 日
第 2 回 7 月 1 日
第 3 回 7 月 25 日
第 4 回 8 月 26 日
第 5 回 9 月 5 日
第 6 回 9 月 9 日
9 月 15 日、16 日 個別指導 (授業計画)

<現地研修> スケジュール

月/日	滞在都市	活動内容	宿泊地
9/18 日	福岡(シンガポール)→スラバヤ	移動、オリエンテーション	スラバヤ
9/19 月	スラバヤ	アイルランガ大学 教育実習	スラバヤ
9/20 火	スラバヤ	アイルランガ大学 教育実習	スラバヤ
9/21 水	スラバヤ	アイルランガ大学 教育実習	スラバヤ
9/22 木	スラバヤ	アイルランガ大学 教育実習	スラバヤ
9/23 金	スラバヤ	アイルランガ大学 教育実習	スラバヤ
9/24 土	スラバヤ	スラバヤ市内見学	スラバヤ
9/25 日	スラバヤ(シンガポール)	スラバヤ市内見学、移動	(機中泊)
9/26 月	(シンガポール)→福岡	(移動)	

<事後研修>

実習の録画や教員による授業評価などをもとに、実習の記録を作成。

(出典：平成 28 年度第 5 回グローバル教育カレッジ運営委員会会議資料より)

○その他

セメスターごとに、全科目シラバスを含む日本語クラス案内を発行し、さらにオリエンテーション、日本語プレイスメントテスト、履修相談を実施し、学生のニーズに合致した日本語科目の履修を可能にしている。

交流と学習を支援するための教室を整備し、電子黒板の導入や iPad、ノート PC を使用した授業を実施している。

既存の学務情報システムで対応不可能なため導入された新教務事務システムを活用し、単位の不要な学生と必要な学生が混在したクラスでも一括して出席や成績の管理ができるようにし、かつ、科目ごとの身分別受講者数等も表示できるよう改善した(資料Ⅱ-1-2-14)。

資料Ⅱ-1-2-14 新教務事務システム画面

クラス別受講者数一覧 【2017年度 秋・冬学期】

年度: 2017 期: 20-秋冬学期 コース: 日本語プログラム 検索 画面下へ Excel出力

項	クラス	受講者合計	学部学生	大学院学生	学部研究生	大学院研究生	学部特別聴講学生(交換留学生)	大学院特別聴講学生	大学院特別研究学生	学部特別聴講学生(日本語日本文化研修留学生)	日本語研修生	学部特別聴講学生(文学部附属、その他)	その他
1	BJ-1 初級集中 A 月1 大庭	8	0	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0
2	BJ-2 初級集中 A 月2 小坂	8	0	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0
3	BJ-3 初級集中 A 火1 吉里	8	0	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0
4	BJ-4 初級集中 A 火2 日服	8	0	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0
5	BJ-5 初級集中 A 水1 梅田	8	0	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0
6	BJ-6 初級集中 A 水2 小坂	8	0	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0
7	BJ-7 初級集中 A 木1 吉里	8	0	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0
8	BJ-8 初級集中 A 木2 日服	8	0	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0
9	BJ-9 初級集中 A 金1 梅田	8	0	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0
10	BJ-10 初級集中 A 金2 大庭	8	0	1	0	0	7	0	0	0	0	0	0
11	BJ-11 初級 S 月5 定永	32	0	11	0	3	2	13	2	0	0	0	1
12	BJ-12 初級 S 水5 定永	32	0	11	0	3	2	13	2	0	0	0	1
13	BJ-13 初級 S 水1 興	29	0	15	0	0	3	4	0	0	0	3	4

(61件)

(出典：新教務システムより)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

グローバル人材教育センター／オープン教育センターにおいては、学部生や留学生向けに Multidisciplinary Studies を提供している。また、GLC 生向けに、入学前セミナー、グローバル学修プログラム及びグローバル課外教育プログラムを提供している。さらに、english-TALKmon 等の課外活動で、学生が主体的に学習する環境を整備し、本学の国際化に大きく貢献している。

日本語・日本文化教育センターにおいては、増加する日本語クラスの留学生に対応するため、年度ごとにクラス数を見直し、教育内容を改善している。また、日本語上級レベル向け日本語能力試験対策講座や初級者向けの日本語講座など多様な教育機会、教育方法を提供している。

以上のような状況から、期待される水準を上回っていると判断できる。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 2-1 学業の成果

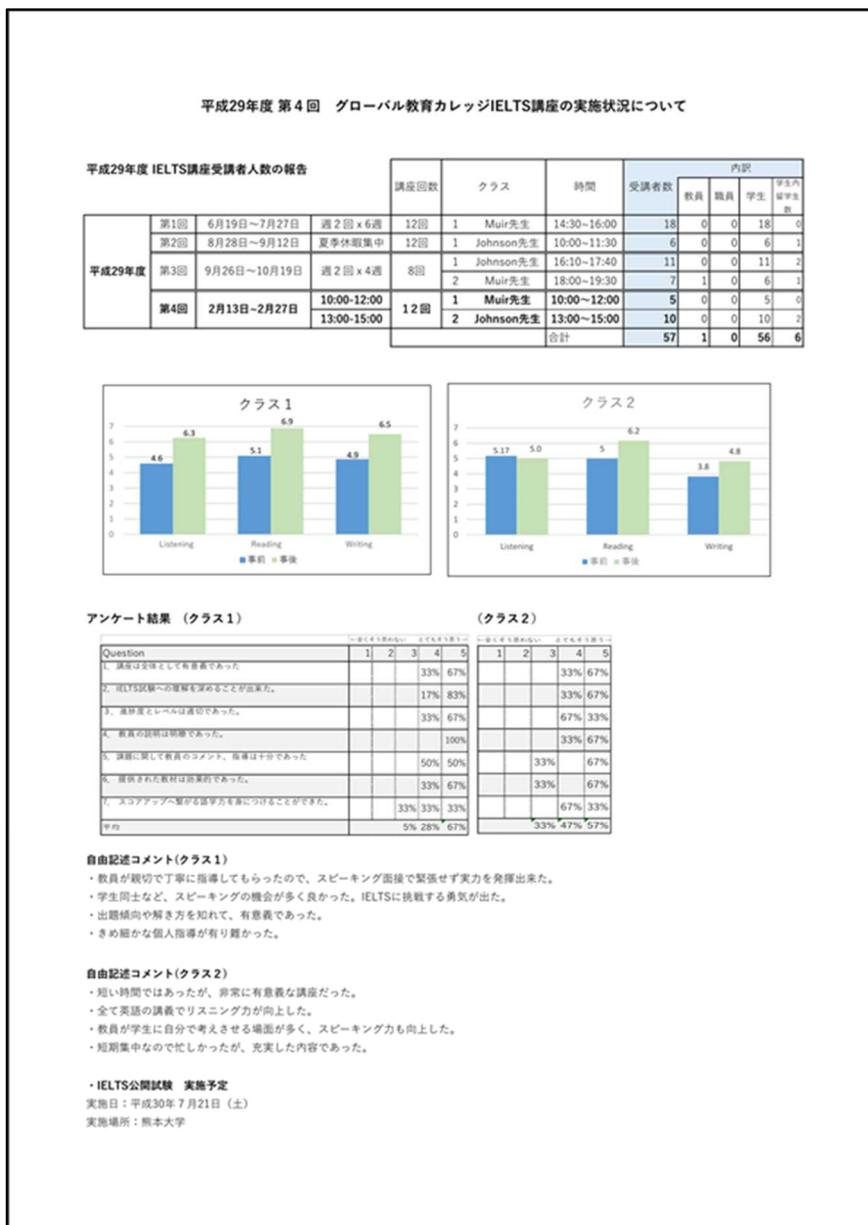
(観点に係る状況)

グローバル人材教育センター／オープン教育センター

○資格取得状況、学外の語学等の試験の結果、学生が受けた様々な賞の状況から判断される学習成果の状況

グローバル教育カレッジでは、日本人学生の海外派遣促進を目的に、英語力向上のため、IELTS 講座を行っている。平成 28 年度は、延べ 85 名、平成 29 年度は、延べ 57 名が受講している。講座事前・事後の平均バンドスコアは、0.5~1.0 上昇しており、大きな効果があった。また、アンケートでは、受講者の 90%以上が有意義であったと回答している(資料Ⅱ-2-1-1)。

資料Ⅱ-2-1-1 平成 29 年度 IELTS 講座アンケート集計結果



(出典：平成 29 年度第 14 回グローバル教育カレッジ運営委員会資料より)

日本語・日本文化教育センター

○履修、修了状況から判断される学習成果の状況

グローバル教育カレッジに所属する日本語研修生に対して、日本語研修コースを提供し、毎学期、受講を証明する修了証を学長名で発行している。さらに研修コース科目は、「英語による短期留学プログラム」の科目としても開講され、毎学期の多くの交換留学生在が受講し単位を修得している。

教養教育の日本語科目では、学部正規生だけでなく交換留学生在も多数受講し単位を修得している。さらに、単位の修得の出来ない大学院生、大学院研究生、大学院特別聴講学生や特別研究学生、学部研究生等の身分の留学生的の受講も積極的に受け入れて、日本語能力の向上を支援している。

○学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果とその分析

授業改善のためのアンケートの結果、日本語科目への満足度はほぼ良好であった（資料Ⅱ-2-1-2）。

資料Ⅱ-2-1-2 初修外国語（日本語）のアンケート結果について

<p>24. 初修外国語（日本語）</p> <p>(1) 2016年度前学期・後学期の集計結果および分析</p> <p>日本語科目は毎年受講する留学生的の傾向に応じて内容や指導方法を適宜修正したり、科目そのものを変更したりしており、前の年度と同じ内容、同じ担当者、同じ方法により授業をしているわけではないため、単純な比較はできない。そのため以下では2016年度のみで資料で紹介する。また従来の様式を踏襲した書き方で分析する。</p> <p>【質問1】 授業の難易度</p> <p>(a) 平均が2未満のものは全43科目中0科目、標準偏差が0.8以上のものは11科目であった。</p> <p>(b) 日本語能力を測る日本語プレースメントテストによって学生の日本語能力を判定するが、漢字の分かる漢字圏からの留学生的の場合、判定が高めに出やすいなど、ずれが生じる。しかし例年同じ程度の結果となっており、特に問題はないと判断できる。</p> <p>【質問2】 教員の声</p> <p>(a) 43科目中、平均が2.5以上のものは0科目、標準偏差が0.8以上のものは2科目であった。</p> <p>(b) 教員の声の聞き取りやすさについては問題はないと判断できる。</p> <p>【質問3】 授業手段の有効度</p> <p>(a) 43科目中、平均が2.5以上のものは0科目、標準偏差が0.8以上のものは3科目であった。</p> <p>(b) 授業手段の有効度についてはおおむね良好であると判断できる。</p> <p>【質問4】 授業の双方向性</p> <p>(a) 43科目中、平均が2.5以上のものは0科目、標準偏差が0.8以上のものは1科目であった。</p> <p>(b) 授業の双方向性については良好であると判断できる。</p> <p>【質問5】 授業目標の明示度</p> <p>(a) 43科目中、平均が2.5以上のものは0科目、標準偏差が0.8以上のものは1科目であった。</p> <p>(b) 授業目標の明示度についても良好であると判断できる。</p> <p>【質問6】 シラバスとの整合性</p> <p>(a) 43科目中、平均が2.5以上のものは0科目、標準偏差が0.8以上のものは2科目であった。</p> <p>(b) シラバスとの整合性については良好であると判断できる。</p> <p>【質問7】 目標の達成度</p> <p>(a) 43科目中、平均が2.5以上のものは0科目、標準偏差が0.8以上のものは2科目であった。</p> <p>(b) 学生による目標の達成度については良好であると判断できる。</p> <p>【質問8】 LMS等の有効性</p> <p>(a) 43科目中、平均が2.5以上のものは1科目、標準偏差が0.8以上のものが13科目であった。</p> <p>(b) 日本語クラスにおいてLMS等の活用している科目はごくわずかである。にもかかわらず、</p>
--

(出典：「授業改善のためのアンケート」実施報告書-2016年度実施分-より)

○その他

平成 28 年 6 月 18 日に岐阜県高山市で開催された第 57 回「外国人による日本語弁論大会」(主催：国際教育振興会他、後援：外務省、文化庁他)に、本学の留学生が出場し全国に放送された。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

日本人学生の英語力向上のための IELTS 講座については、講座事前・事後の模試において平均スコアが上昇しており、大きな効果があった。また、学部、大学院の正規学生以外の多様な留学生へのアンケートの実施とその結果を受けた改善、留学生の学外での活動は、教育成果として期待される水準を上回ったと判断できる。

観点 2-2 進路・就職の状況

(観点到係る状況)

該当なし

(水準)

(判断理由)

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

(判定区分)

質を維持している。

(理由)

グローバル人材教育センター／オープン教育センターにおいては、平成28年度より、学部生及び留学生向けに英語による科目 Multidisciplinary Studies を提供しており、履修者数は増加傾向にある。また、GLC 生向けに、グローバル学修プログラム及びグローバル課外教育プログラムを提供している点や english-TALKmon 等の課外活動で、学生が授業時間外に主体的に学習することを促す環境を整備している点は、本学のグローバル化の推進に大きく貢献しているといえる。

日本語・日本文化教育センターにおいては、増加する日本語クラスの留学生に対応するため、年度ごとにクラス内容やクラス数を見直し、教育内容を改善している。さらに多数の日本語クラスを開講しているだけでなく、日本語上級レベル向けの日本語能力試験対策講座や初級者向けの日本語講座、さらに日本人学生のための日本語教育課程での海外での研修、PC や iPad を使用した授業など、多様な教育機会、教育方法を提供している。

以上のような状況から、改善、向上していると判断できる。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

(判定区分)

改善、向上している。

(理由)

日本人学生の海外派遣促進のための IELTS 講座などにより、講座事前・事後の平均バンドスコアも上昇しており、大きな効果があった。また、学部、大学院の正規学生以外の多様な留学生へのアンケートの実施とその結果を受けた改善、留学生の学外での活動は、一定の教育成果があった。

以上のような状況から、改善、向上していると判断できる。

Ⅲ 社会貢献の領域に関する自己評価書

1. 社会貢献の目的と特徴

第3期中期目標の初年度にあたる平成28年度に、運営費交付金の算定ルールの見直しに伴い、機能強化促進係数に改められ、機能強化の方向性に応じた取組をきめ細かく支援するため「3つの重点支援の枠組み」が新設された。本学は、重点支援①：地域貢献型を選択し、第三期中期目標・中期計画の中で“地域社会のグローバル化を牽引するための様々な学びの場を提供し、多文化共生社会の発展に貢献する”という目標を掲げている。

グローバル教育カレッジの社会貢献における目的は、グローバル教育と国際交流の機会を地域社会に提供することによって、本学が掲げる目標である地域社会のグローバル化に貢献することである。オープン教育センターが中心的な役割を担っており、特徴的な取り組みとしては、「コミュニティーセラピーによる熊本復興支援」や「熊大グローバル Youth キャンパス事業」などがある。

「コミュニティーセラピーによる熊本復興支援」は、平成28年4月に発生した熊本地震の復興支援を行うことを目的として、設置された熊本復興支援プロジェクトの活動の一環として企画したものである。被災した本学学生や地域の方々を元気づけたいとの目的の下、外国人留学生（以下、留学生）が中心となって外国語・日本語レッスン、書道、折り紙、ヨガやアートセラピー等の様々な活動を提供した。

また、「熊大グローバル Youth キャンパス事業」は、高校生や高専生が大学入学前に国際的に学べる環境を体験できるように、イベントを実施する事業である。留学生と交流する機会や留学経験のある本学学生から体験談や留学準備について聞く機会を提供している。

[想定する関係者とその期待]

行政機関（県、市）、各種経済団体、各種企業・法人、各高等教育機関をはじめとする学校、教育関係者など、国際交流に関わるあらゆる団体及び地域住民が関係者となる。

グローバル教育カレッジ主催で開催している国際交流イベントを拡充し、地域のグローバル化の拠点としての役割を強化することが期待される。

また、高校生にとっては、留学生と直接交流できる熊大グローバル Youth キャンパス事業は貴重な体験であり、国際交流に興味を抱く大きな動機付けとなるため、スーパーグローバルハイスクール（以下、SGH）やスーパーサイエンスハイスクール（以下、SSH）を含めたグローバル化を目指す中・高等学校等に対して、質の高いグローバル教育を提供することが期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

地域の高校生等へ早期グローバル教育及び国際交流活動の機会を提供することを目的に実施している「熊大グローバル Youth キャンパス事業」について、本学の外国人教員や留学生を、県内の SGH 及び SSH 指定校等へ派遣して、英語による授業や議論・助言の場の提供、高校生等を対象に「Open College Day」や「Go Global Seminar」等の国際交流イベント実施など、グローバル教育カレッジが中心となって様々な事業を展開した結果、平成 29 年度の目標数である年間 300 名を大きく上回る 643 名の高校生等が参加し、地域の高校生等のグローバル人材育成に大きく貢献した。

また、オープン教育センターの各種活動では、多彩な国際交流の機会を提供し、平成 29 年度に総計 377 人の一般市民（内熊本に在住する一般外国人 29 人）が参加した。

そして、平成 28 年熊本地震の発生後は、地域住民を元気づけるため、震災復興支援プロジェクトを 4 日間実施し、本学の学生や留学生を含む 269 名の参加があった。中でも、初級日本語・日本文化講座と英語によるヨガ講座などにおいては、一般外国人 12 名が参加し、一般外国人向けの交流プログラム提供目標数 10 名を上回り、外国人住民と地域との共生を促進する成果を挙げた。

【改善を要する点】

高校生、高専生への早期グローバル教育提供のため、連携する高等学校、高等専門学校を増加させ、SGH 採択校、SSH 採択校等との連携を更に強化し、九州圏内に広くグローバル教育の提供を推進することが課題である。また、高等学校、高等専門学校側のニーズに応える事業も展開し、将来、本学入学を目指す高校生等の育成に寄与する。特に、各高校へ訪問するプログラムより、本学で受講するプログラムの推進が必要と考える。

グローバル教育カレッジ主催で開催している国際交流イベントをさらに拡充し、地域のグローバル化を先導する。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 社会貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

本学は、平成 28 年 4 月に発生した熊本地震の復興支援として、熊本復興支援プロジェクトを設置し、活動を行っている。グローバル教育カレッジにおいても、本学が行う熊本復興支援プロジェクトの一環として、「コミュニティセラピーによる熊本復興支援」という名の企画を立案し、アートセラピーやミュージックセラピーといった様々なイベントを計画している(資料Ⅲ-1-1-1)。

資料Ⅲ-1-1-1 復興支援プロジェクト提案書(抜粋)

熊本復興プロジェクト(提案型)											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">課題</td> <td>コミュニティセラピーによる熊本復興支援 ～熊本大学による社会貢献の新しいかたち～</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">背景</td> <td> <p>熊本地震からの復興は、物質的なものからだけに関わらず、心の復興も重要であり、そのための特別なケアが必要である。心の復興には、個人別のケアやカウンセリングもさることながら、コミュニティの一員として集団による取組みが有効であると考え、コミュニティセラピーの概念を導入したプロジェクトの立ち上げを計画するものである。</p> <p>コミュニティセラピーとは、家族と個人、大人と子供、障害者と健常者、大学と社会、外国人と日本人などの壁を越えた密接なつながりを作り上げていくことにより、社会の中での人と人とのつながりを健全なものに作り上げる事である。熊本在住者は熊本地震という共通の体験を経て、いま特有のつながりを共有している。この機会に熊本の地域社会における人間関係や役割を見直すことにより、以前よりも強く他に例をみないコミュニティモデルを作るチャンスが与えられているのではないだろうか。</p> <p>そのための”触媒”としての役割を、熊本大学グローバル教育カレッジの「オープン教育センター」が果たせると考えている。センターは「高大連携」などの社会還元活動を地震発生以前からも行ってきたが、熊本復興という新たな目的のもと「社会の復元」というテーマでこれからの熊本のまちづくりに役立つプロジェクトを推進したい。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">教育資源</td> <td> <p>スーパーグローバル大学創成支援事業として設立された熊本大学グローバル教育カレッジ(以下「カレッジ」)は、このプロジェクトのために以下のような物的および人的なリソースを提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • カレッジ棟として新たに建てられた専用棟は、オープン形式の授業やゼミに適した教室形態や、多文化交流にふさわしいラウ </td> </tr> </table>	課題	コミュニティセラピーによる熊本復興支援 ～熊本大学による社会貢献の新しいかたち～	背景	<p>熊本地震からの復興は、物質的なものからだけに関わらず、心の復興も重要であり、そのための特別なケアが必要である。心の復興には、個人別のケアやカウンセリングもさることながら、コミュニティの一員として集団による取組みが有効であると考え、コミュニティセラピーの概念を導入したプロジェクトの立ち上げを計画するものである。</p> <p>コミュニティセラピーとは、家族と個人、大人と子供、障害者と健常者、大学と社会、外国人と日本人などの壁を越えた密接なつながりを作り上げていくことにより、社会の中での人と人とのつながりを健全なものに作り上げる事である。熊本在住者は熊本地震という共通の体験を経て、いま特有のつながりを共有している。この機会に熊本の地域社会における人間関係や役割を見直すことにより、以前よりも強く他に例をみないコミュニティモデルを作るチャンスが与えられているのではないだろうか。</p> <p>そのための”触媒”としての役割を、熊本大学グローバル教育カレッジの「オープン教育センター」が果たせると考えている。センターは「高大連携」などの社会還元活動を地震発生以前からも行ってきたが、熊本復興という新たな目的のもと「社会の復元」というテーマでこれからの熊本のまちづくりに役立つプロジェクトを推進したい。</p>	教育資源	<p>スーパーグローバル大学創成支援事業として設立された熊本大学グローバル教育カレッジ(以下「カレッジ」)は、このプロジェクトのために以下のような物的および人的なリソースを提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • カレッジ棟として新たに建てられた専用棟は、オープン形式の授業やゼミに適した教室形態や、多文化交流にふさわしいラウ 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;"></td> <td> <p>ンジなど斬新な施設を有しており、さまざまなイベントや催し物に使用できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • カレッジは国際経験が豊富な多国籍の教師陣を有しており、専門分野は歴史、経済学、人類学、映像学、音楽、教育、エネルギー、環境科学、と多岐にわたる事に加え、ヨーロッパ、アメリカ、中東、東アジア、東南アジア、アフリカなど広い地域を視野に入れた教育・研究活動を行っている。 • カレッジのミッションの一つは大学の国際化の成果を社会に還元する事であり、そのミッション遂行のための「オープン教育センター」を有している。そこでは高大連携活動や熊本在住の留学生と地元の交流、海外からの学生や研究者招聘といった活動を行っている。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">活動内容</td> <td> <p>本プロジェクトで行う活動は以下を計画している。</p> <ul style="list-style-type: none"> • フォーラム&情報共有セッション 多文化共生社会における個人、国、文化、宗教、世代、社会や経済などに関連したトピックスについて、カレッジの講師が主導しながら講習会や意見交換会を行うことにより、情報や感情を共有するセッション。 • アートセラピー 人類学ドキュメンタリーなどを含む映画の上映講習会や、芸術、図工などを共同で制作することによるセラピーセッション。 • ミュージックセラピー ライブコンサート、音楽文化に関する講習会、またセラピーの定番として定評のあるドラムサークルセッション。 • ファームセラピー カレッジが教育のために作っている畑を使い、共同で簡単な庭作業などしながら、環境問題、世界と平和について語るセッション。 </td> </tr> </table>		<p>ンジなど斬新な施設を有しており、さまざまなイベントや催し物に使用できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • カレッジは国際経験が豊富な多国籍の教師陣を有しており、専門分野は歴史、経済学、人類学、映像学、音楽、教育、エネルギー、環境科学、と多岐にわたる事に加え、ヨーロッパ、アメリカ、中東、東アジア、東南アジア、アフリカなど広い地域を視野に入れた教育・研究活動を行っている。 • カレッジのミッションの一つは大学の国際化の成果を社会に還元する事であり、そのミッション遂行のための「オープン教育センター」を有している。そこでは高大連携活動や熊本在住の留学生と地元の交流、海外からの学生や研究者招聘といった活動を行っている。 	活動内容	<p>本プロジェクトで行う活動は以下を計画している。</p> <ul style="list-style-type: none"> • フォーラム&情報共有セッション 多文化共生社会における個人、国、文化、宗教、世代、社会や経済などに関連したトピックスについて、カレッジの講師が主導しながら講習会や意見交換会を行うことにより、情報や感情を共有するセッション。 • アートセラピー 人類学ドキュメンタリーなどを含む映画の上映講習会や、芸術、図工などを共同で制作することによるセラピーセッション。 • ミュージックセラピー ライブコンサート、音楽文化に関する講習会、またセラピーの定番として定評のあるドラムサークルセッション。 • ファームセラピー カレッジが教育のために作っている畑を使い、共同で簡単な庭作業などしながら、環境問題、世界と平和について語るセッション。
課題	コミュニティセラピーによる熊本復興支援 ～熊本大学による社会貢献の新しいかたち～										
背景	<p>熊本地震からの復興は、物質的なものからだけに関わらず、心の復興も重要であり、そのための特別なケアが必要である。心の復興には、個人別のケアやカウンセリングもさることながら、コミュニティの一員として集団による取組みが有効であると考え、コミュニティセラピーの概念を導入したプロジェクトの立ち上げを計画するものである。</p> <p>コミュニティセラピーとは、家族と個人、大人と子供、障害者と健常者、大学と社会、外国人と日本人などの壁を越えた密接なつながりを作り上げていくことにより、社会の中での人と人とのつながりを健全なものに作り上げる事である。熊本在住者は熊本地震という共通の体験を経て、いま特有のつながりを共有している。この機会に熊本の地域社会における人間関係や役割を見直すことにより、以前よりも強く他に例をみないコミュニティモデルを作るチャンスが与えられているのではないだろうか。</p> <p>そのための”触媒”としての役割を、熊本大学グローバル教育カレッジの「オープン教育センター」が果たせると考えている。センターは「高大連携」などの社会還元活動を地震発生以前からも行ってきたが、熊本復興という新たな目的のもと「社会の復元」というテーマでこれからの熊本のまちづくりに役立つプロジェクトを推進したい。</p>										
教育資源	<p>スーパーグローバル大学創成支援事業として設立された熊本大学グローバル教育カレッジ(以下「カレッジ」)は、このプロジェクトのために以下のような物的および人的なリソースを提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • カレッジ棟として新たに建てられた専用棟は、オープン形式の授業やゼミに適した教室形態や、多文化交流にふさわしいラウ 										
	<p>ンジなど斬新な施設を有しており、さまざまなイベントや催し物に使用できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • カレッジは国際経験が豊富な多国籍の教師陣を有しており、専門分野は歴史、経済学、人類学、映像学、音楽、教育、エネルギー、環境科学、と多岐にわたる事に加え、ヨーロッパ、アメリカ、中東、東アジア、東南アジア、アフリカなど広い地域を視野に入れた教育・研究活動を行っている。 • カレッジのミッションの一つは大学の国際化の成果を社会に還元する事であり、そのミッション遂行のための「オープン教育センター」を有している。そこでは高大連携活動や熊本在住の留学生と地元の交流、海外からの学生や研究者招聘といった活動を行っている。 										
活動内容	<p>本プロジェクトで行う活動は以下を計画している。</p> <ul style="list-style-type: none"> • フォーラム&情報共有セッション 多文化共生社会における個人、国、文化、宗教、世代、社会や経済などに関連したトピックスについて、カレッジの講師が主導しながら講習会や意見交換会を行うことにより、情報や感情を共有するセッション。 • アートセラピー 人類学ドキュメンタリーなどを含む映画の上映講習会や、芸術、図工などを共同で制作することによるセラピーセッション。 • ミュージックセラピー ライブコンサート、音楽文化に関する講習会、またセラピーの定番として定評のあるドラムサークルセッション。 • ファームセラピー カレッジが教育のために作っている畑を使い、共同で簡単な庭作業などしながら、環境問題、世界と平和について語るセッション。 										

(出典：国際教育課作成)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

“コミュニティセラピーによる熊本復興支援”という企画の名の下、計画した様々なイベントについては、グローバル教育カレッジの Web ページにて広く公表しているため。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

グローバル教育カレッジ棟では、熊本地震が行われた後、熊本復興支援プロジェクトの一環として、オープン教育センターで様々なイベントを企画して主催した(資料Ⅲ-1-2-1、2)。

資料Ⅲ-1-2-1 オープン教育センター主催の熊本復興支援プロジェクト一覧

平成28年度 グローバル教育カレッジ オープン教育センター イベント報告

日付	イベント	グローバル Youth キャンパス	報告	参加人数
				計
4月25日～28日	地震後提供した活動		グローバル教育カレッジオープン教育センターは、4月25日から4月28日まで、留学生が中心となって外国語と日本語レッスンや書道、折り紙、ヨガ、アートセラピー、トルコとポーランドダンス、映画等の様々な活動を学生・教職員及び地域住民を対象に提供し、4日間の参加延べ人数は269名を数えた。 参加していた人々には、地震の緊張を少し忘れたかのように笑顔やリラックスする姿が見られた。	269
7月7日	フォーク音楽公開セミナー・演奏会		グローバル教育カレッジでは、熊本復興支援プロジェクトの一貫として、グローバル教育カレッジのリカード教員とチャン教員がアメリカ出身のアーティスト、ニック・ディサント氏と一緒に英語によるフォーク音楽公開セミナーを行った。 その後、交流ラウンジにてディサント氏が自作した楽器による演奏会も実施した。セミナーのテーマは文化のイノベーションと、音楽を通じたフォーク文化の再生だった。熊本大学の学生・教職員及び一般の方から50名程度の参加があった。 グローバル教育カレッジのオープン教育センターは、このようなイベントをおとてグローバル教育と国際交流の機会を地域社会に提供することによって、地域社会のグローバル化に貢献することを目指しています。	50
11月8日	熊本地震復興支援チャリティーライブ さゆり・チャンコンサート		知的障がいを持ちながらも福岡、熊本や海外で精力的に演奏活動を繰り広げている白井小百合さんと本学グローバル教育カレッジのCHAN特任教授とでトリオを組み、熊本県上益城郡益城町の益城エリムキリスト教会においてチャリティーライブを行った。 白井さんのマリンバとCHAN特任教授のピアノで「炎のランナー」、「もみじ」、「茶色の小瓶」など広く親しまれている楽曲を息の合った演奏で約1時間に渡り披露し、近隣から集まった約50名の観客が終始笑顔でコンサートを楽しむ様子が伺えた。	48
12月5日	イタリア古典仮面劇ワークショップ		16～17世紀に成立したイタリアの伝統仮面劇コメディア・デッラルテを専門に研究、実践するフラテルナル劇団をポーロニヤから招き、身体による感情の伝え方を学んだ。このワークショップは、熊本大学の熊本復興支援プロジェクトのシアターセラピーと位置付けられた。	53
1月25日	熊本地震復興支援チャリティーライブ さゆり・チャンコンサート		知的障がいを持ちながらも福岡、熊本や海外で精力的に演奏活動を繰り広げている白井小百合さんと本学グローバル教育カレッジのCHAN特任教授とで、熊本県上益城郡益城町の益城町交流情報センターにおいて今年度2回目となるチャリティーライブを行った。 白井さんのマリンバとCHAN特任教授のピアノで「おもちゃのチャチャチャ」、「雪やこんこ」、「さんぽ」など広く親しまれている楽曲を息の合った演奏で約1時間に渡り披露し、近隣の保育園から集まった約60名の園児と先生方が曲に合わせて大きな声で歌ったり、終始笑顔でコンサートを楽しむ様子が伺えた。コンサート終了後には、おやつ時間を設け、参加した子ども達に本プロジェクトからジュースとパンを提供した。	62
1月31日	不確実性と復興への歩み：難民の試練から学ぶもの (公開討論会および写真展)		1月31日に、熊本大学グローバル教育カレッジにおいてヨーロッパへの移民流入事例における世界的な難民危機とそれを取り巻く様々な社会的・政治的問題についての教育セミナーと公開討論を行った。ディスカッションでは、難民の危機や周辺の市民社会と復興に対する様々な政府の対応について紹介があり、種々意見交換が行われた。 このセミナーと同時間内で、熊本市国際交流会館及びグローバル教育カレッジにおいて写真展を行った。	27
2月28日	熊本地震復興支援チャリティーライブ さゆり・チャンコンサート		知的障がいを持ちながらも福岡、熊本や海外で精力的に演奏活動を繰り広げている白井小百合さんと本学グローバル教育カレッジのCHAN特任教授とで、熊本市南区川尻にある介護施設リハビリデイ みなみで今年度3回目となるチャリティーライブを行った。 白井さんのマリンバとCHAN特任教授のピアノで「365歩のマーチ」、「真赤な太陽」、「水戸黄門」など広く親しまれている楽曲を息の合った演奏で約1時間に渡り披露し、近隣の介護施設からの利用者も含めて約25名の高齢者が終始笑顔と手拍子でコンサートを楽しんだ。 コンサート本番とは別に、午前中のリハーサルでは、別のグループの利用者ら(5名)が演奏を楽しんだ。	30

(出典：国際教育課作成)

資料Ⅲ－１－２－２ オープン教育センター主催の熊本復興支援プロジェクトについて

主催 熊本大学教育学部附属高専課 & 熊本大学グローバル教育カレッジ
共催 イタリア文化会館・大塚
協力 熊本大学演劇センター活動支援プロジェクト

初来熊！ボローニャ・フラテルナル劇団による演劇ワークショップ
身体による“感情”の伝え方
～ イタリア古典仮面劇コンメディア・デッラルテの技法から～

■日時 2016年12月5日(月) 16:10～17:40 (5限)
■場所 熊本大学グローバル教育カレッジ1F ラウンジ
■参加費 無料、服装自由、通訳付(教育学部准教授・山田高誌)
■対象者 パフォーマンス(芸術)に関心のある学生、一般の方
(連絡先: 096-288-4635 (comodo arts project 坂口) / yamada@educ.kumamoto-u.ac.jp 山田)

【内容】
16～17世紀に成立したイタリアの伝統仮面劇コンメディア・デッラルテを専門に研究、実践するフラテルナル劇団をボローニャから招き、身体による感情の伝え方を学びます。現在のアニメ、漫画、映画にもつながる“定型的人物”が、どのような“動き”で人や感情を表現し、それらの人物を“表現”していたのか一緒に身体を動かしながら考えてみましょう。この経験は、演劇を演じるためだけでなく、どのように他人に物語やイメージを伝えるか、現代社会の様々な場面において生かすことのできるスキルとなるはずです。
なお、このワークショップは、熊本大学の熊本復興支援プロジェクトのシアターセラピーと位置付けられておりますので、学生のみでなく、一般の方にも広くご案内いたします。
また、12月7日(水)には、山鹿市の八千代町で同劇団による『ドン・ジョヴァンニ』上演を予定しています(ナラン劇場)。日本の伝統的舞台とイタリアバロック音楽の融合、どうぞご期待ください。

【フラテルナル劇団について】 <http://www.comodo-arts.com/pg210.html>
イタリア・ボローニャ市で、路上生活者など社会的弱者の社会復帰を目的して活動する協会「ピアツァ・グランデ(大きな広場)」の活動を母体に、2000年にマッシモ・マキグエリが設立。イタリア伝統的仮面劇コンメディア・デッラルテを上演し、欧州各地を巡回公演している。2010年には国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)、および国際演劇協会の公認の基、第1回“世界コンメディア・デッラルテの日”(ボローニャ)を主催。また、井上ひさしと交際したマキグエリは、井上の死後代々の戯曲《父と暮らせば》にフラテルナル劇団と上演している。2011年以降3度の日本ツアーを実現し、4度目となる今回は6人の俳優とともに初の九州公演。

ニュース

グローバル教育カレッジ主催コンサート開催について

熊本大学グローバル教育カレッジが熊本復興支援プロジェクトの一環として、音楽を通して子供たちを元気づけるコンサートを下記のとおり企画しています。

『おとこのぬくもりを とどけよう』

日時 1月25日(水) 13:30～(14:15おやつ会)
場所 シンフォニー 芸術研究演習センター
対象 益城町の児童・一般市民
講師 チャン・ツェン・ジュン(熊本大学特任教授)
出演者 白井小百合(マリンバ)、フォルモジニアーズ、トリンクルキャップ(児童)

入場無料

問い合わせ: 096-342-2091

(出典：グローバル教育カレッジ Web ページより)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

グローバル教育カレッジで実施した活動が熊本大学全体の熊本復興プロジェクトの計画に基づいて実施した他、限られた期間で独自の取り組みも行ったため。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

グローバル教育カレッジのオープン教育センターは、平成 28 年 4 月 25 日から 4 月 28 日まで、留学生が中心となって外国語と日本語レッスンや書道、折り紙、ヨガ、アートセラピー等の様々な活動を学生・教職員及び地域住民を対象に提供し、4 日間の参加延べ人数は 269 名であった。参加していた人々には、笑顔やリラックスする姿が見られ、地震に対する緊張を緩和することができた。

また、11 月 8 日に、知的障害を持ちながらも福岡、熊本や海外で精力的に演奏活動を繰り返している白井小百合氏とグローバル教育カレッジの Chan 特任教授とでトリオを組み、熊本県上益城郡益城町の益城エリムキリスト教会においてチャリティーライブを行った。「炎のランナー」、「もみじ」、「茶色の小瓶」など広く親しまれている楽曲を息の合った演奏で約 1 時間に渡り披露し、近隣から集まった約 50 名の観客が終始笑顔でコンサートを楽しむ様子が伺えた。

さらに、熊本復興支援プロジェクトのシアターセラピーという位置付けとして、2016 年 12 月 5 日に実施した演劇ワークショップ「身体による”感情”の伝え方～イタリア古典仮面劇コンメディア・デッラルテの技法から～」では、16～17 世紀に成立したイタリアの伝統仮面劇コンメディア・デッラルテを専門に研究、実践するフラテルナル劇団をボローニャから招き、ワークショップを行った。学生や地域住民などを計 53 人が参加し、身体による感情の伝え方について、楽しく学んでいる様子が伺えた。

以上のように、熊本復興支援プロジェクトの一環として実施した様々な活動に、多くの方に参加いただき、参加者の地震に対する緊張や疲れなどを軽減する成果があったといえる。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

グローバル教育カレッジが熊本復興支援プロジェクトの一環として実施した活動には、多くの学生や地域住民などが参加し、参加者の地震に対する緊張や疲れなどを軽減する成果があったため。また、大学と社会、外国人と日本人などの壁を越えた密接なつながりを作り上げることもできた。

観点 改善のための取組が行われているか。

グローバル教育カレッジで行われた熊本地震に関する復興支援活動について、熊本地震学生ボランティア報告会（資料Ⅲ-1-4-1）にて報告、参加者から意見をいただいた。

報告会及び各イベントに参加された学生や地域住民からいただいた意見や感想については、今後の改善に活かしている。

資料Ⅲ-1-4-1 熊本地震学生ボランティア報告会について



(出典：熊本地震学生ボランティア報告会ポスターより)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

報告会及び各イベントに参加された学生や地域住民からいただいた意見や感想を改善の取り組みに活かしているため。

分析項目Ⅱ 大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

本学は、スーパーグローバル創成支援事業（以下、SGU）にて、“世界に開かれた地域づくりを牽引するグローバルキャンパスの提供”という構想を掲げている。

グローバル教育カレッジの地域貢献における役割は、地域の高等学校等の生徒・学生に対する早期グローバル教育及び一般外国人に対してグローバルな学びの場を提供し、世界に開かれた地域づくりを牽引することであり、SGU で掲げる構想を達成するための中心的な役割を担っている。

具体的な活動として、熊大グローバル Youth キャンパス事業やス SGU シンポジウムの実施について、第三期中期目標・中期計画の計画番号 42（資料Ⅲ-2-1-1）やスーパーグローバル創成支援事業の年度計画（資料Ⅲ-2-1-2）に掲げており、熊本大学 Web ページ等にて広く公表・周知されている。

資料Ⅲ-2-1-1 第三期中期目標・中期計画抜粋

- ①地域のグローバル化に貢献するため、熊大グローバル Youth キャンパス事業を促進し、平成 33 年度までに年間 500 人の地域の中高生や高専生を受入れ、早期グローバル教育を実施する。【計画番号 42】

- ②地域と外国人との豊かな共生を促進するため、グローバル教育カレッジが中心となって、平成 33 年度までに年間 100 人の一般外国人に対して多彩な交流プログラム等を実施する。【計画番号 43】

(出典：第三期中期目標・中期計画より)

資料Ⅲ-2-1-2 SGU 年度計画

年度別実施計画（構想調書からの転載）	これまでの取組状況・課題を踏まえた今後の展望 (発展的な構想の見直しの方向性を含む)
<p>【平成 29 年度】：第 1 回中間評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際系新大学院の設立準備を開始する。 2. 第 1 回中間評価を受ける。 3. 熊大 FleCS を 2 学部を導入する。 4. TOEFL 等の外部試験を活用した一般入試、高大連携特別入試、海外オフィス海外拠点を活用した海外入試の見直しと拡大を図る。 5. GAO を活用し、海外入試による留学生受入を促進する。 6. 熊大グローバル Youth キャンパス事業の拡大を図る。 7. 既存宿舍と同一地区に、混住型学生宿舍を整備する。 8. 海外の大学と提携した職員等のインターンシップ交流プログラムを開始する。 9. 海外アドバイザリボードによる諮問委員会を開催する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルリーダーコースを開講した。 2. 教養教育全体において、クォーター制を導入した。 3. 海外 AO 入試の実施に向けた具体的検討を行う。 4. 本構想の内容の発展的見直しに基づき、学士課程における外国語(英語)のみで卒業できるコース設置に関して検討を開始する。 5. 留学生に魅力のある本学独自の教育プログラム提供のため、国内における就職支援等に力を入れたプログラム及び留学生サポート施策を実施する。 6. 新たな海外オフィス等を 1 拠点設置する。 7. 学生・教職員の海外派遣時の危機管理体制を強化する。 8. 本構想に関する本学の取組状況を報告・発信するシンポジウム型のイベントを開催する。 9. 本構想の実施に関連するグローバル関連の学内組織の発展的改組を行う。 10. 第 1 回中間評価を受ける。

(出典：平成 29 年度第 4 回 SGU 推進会議資料より)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

本学の地域貢献活動に関する計画は、Web ページに掲載されており、公表・周知されている。また、熊大グローバル Youth キャンパス事業の公募等に関するメールニュースの配信や活動状況を学内の広報誌等で紹介するなど、多様な広報を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

① 熊大グローバル Youth キャンパス事業

オープン教育センターでは、熊大グローバル Youth キャンパス事業として、平成 28 年度に 8 件、平成 29 年度に 13 件の活動を実施した。(資料Ⅲ-2-2-1,2)

資料Ⅲ-2-2-1 熊大グローバル Youth キャンパス事業について

方針4:世界に開かれた地域づくりを牽引するグローバルキャンパスの提供
「熊大グローバルYouthキャンパス事業」の展開と地域連携

県内の高校生等へ早期グローバル教育及び国際交流活動の機会を提供

主な実施内容:

- ・SGH・SSH採択校の英語論文チェックや研究発表会に本学の外国人教員と留学生が参加
- ・Summer Program in English 参加留学生と高校生の国際交流イベント「留学生と Meet&Greet」を実施
- ・高校生や一般の方と留学生、留学経験を持つ日本人学生が交流する「サマーフェスタ」や「Soseki Global Cafe」を開催
- ・高校生の英語プレゼンテーション力の向上及び様々な分野で活躍している講師(ロールモデル)による講話を聞く「Go Global Workshop」を開催
- ・スラバヤで開催された自然科学研究科の国際会議 ICAST に高校生2人が参加、発表
- ・SSH採択校とマレーシアの高校生の交流会を実施

本学が蓄積したグローバル化の資産を地域社会に還元

主な実施内容:

- ・海外機関と連携した一般市民向け講演会の開催
- ・大学エノソシアム熊本加盟校へのFD研修の提供
- ・地域住民及び一般外国人へのグローバル交流プログラムの提供
- ・外国人研究者、地域の外国人への日本語教育の実施



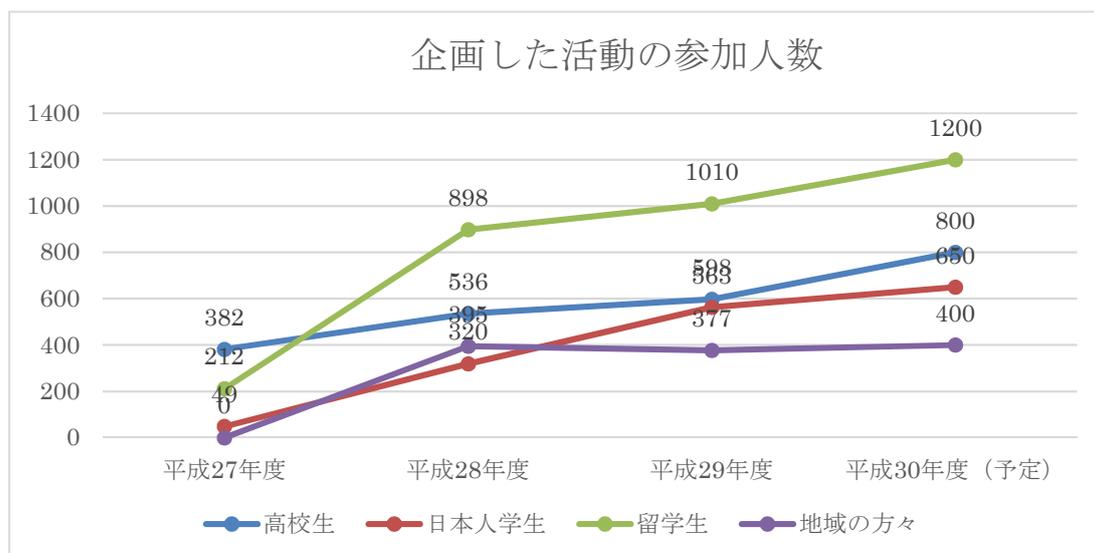
Summer Program in English
参加留学生と高校生の交流イベント

Go Global Workshop
ロールモデル(原田学長)

熊本大学「マンスフィールド」財団連携セミナー
日米関係の現状と今後の展望

(出典：SGU シンポジウム発表資料より)

資料Ⅲ-2-2-2 熊大グローバル Youth キャンパス事業参加者推移



(出典：国際教育課作成)

② SGU シンポジウム

平成 30 年 3 月 5 日に、「大学のグローバル化と地域に根ざしたグローバル人材育成」をテーマとして、地域のグローバル化を取り巻く状況での様々な課題解決に向けての情報共有と意見交換を目的として開催した（資料Ⅲ-2-2-3）。

資料Ⅲ-2-2-3 SGU シンポジウムポスター



(出典：グローバル教育カレッジ Web ページ (<http://www.c3.kumamoto-u.ac.jp/3832/>) より)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

第 3 期中期目標・中期計画及び SGU の年度計画に基づき、活動が適切に実施されている。また、熊大グローバル Youth キャンパス事業については、計画・実施するイベント数の増加に伴い、参加人数も増えている。結果、地域及び高校からの積極的な協力計画の提案などが増えてきているため、期待される水準を上回ると判断する。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

① 熊大グローバル Youth キャンパス事業

熊大グローバル Youth キャンパス事業として実施したイベント (サマーフェスタや Soseki Global cafe など) では、アンケートを実施し、高い評価を得ていることから、活動の成果が上がっているといえる (資料Ⅲ-2-3-1)。

資料Ⅲ-2-3-1 熊大グローバル Youth キャンパス事業実施報告書

2017年度 サマー フェスタ 実施報告
開催日時・場所: 8月5日(土) 10:00 ~ 15:00 グローバル教育カレッジ棟
参加人数: 214名 (アンケート回収数:117枚)

出身	人数	学年	人数
熊本県	74	1年	24
厚労系県	10	2年	46
本県他	1	3年	44
福岡県	9	通人生	1
大分県	12	教員	0
佐賀県	4	回答無し	10
宮崎県	7		

1. サマー フェスタをどのようにして知りましたか。
ポスター/チラシ 21%
学校/先生 44%
友達 22%
ネット/SMS 37%
その他 5%

2. サマー フェスタに参加した理由は何ですか。
GLCに興味ある 96%
留学に興味ある 63%
面白そうだった 37%
友達についてきた 16%
その他 3%

3. サマー フェスタの内容(はいができたか。(1~5のスケールで答えていただきました。5=興味深い))
プログラム 平均 4.5
英語による模倣授業 4.5
IELTS説明/模倣授業 4.6
留学応募発表 4.7
GLC説明会 4.7

4. サマー フェスタに参加して良かったと思いますか。
はい 100%
いいえ 0%

5. その他意見等
一緒に来ました母です。中継が上手いかな。回りましたが先生方のフォローで有意義でした。是非合格して子供を遊ばせたいです。
とてもよかったです。ネイティブの英語の先生と話せる経験はいいと思います。
とても知りたい内容が知れて楽しかった。
絶対行きたいと思った。
グローバルリーダーコースに深く興味があったので詳細が知ることができてよかった。
コースの雰囲気がとてもよくなりました。
来年入りますのでよろしくお願いします。





2017年度 Soseki Global Café (Hearn Yokai Café) 実施報告
開催日時・場所: 11月3日(金) 10:00 ~ 15:00 グローバル教育カレッジ棟
参加人数: 301名

所属	人数	1. イベントをどのようにして知りましたか。	人数
高校生	14	ポスター	21%
日本人学生	187	ウェブ	3%
留学生	61	雑誌など	0%
教職員	11	友達紹介	74%
地域の方	48	その他	0%

2. 楽しかったですか。
楽しかった 100%
まあまあ 0%
あまり楽しなかった 0%
楽しなかった 0%

3. どの内容に参加しましたか。
英語劇 63%
海外料理 38%
衣装体験 26%
伝統ゲーム 12%

4. その他意見等
多国籍の大学生が、共同で作成された英語劇だと理解しましたが、その内容が日本のYokai文化であったこと、大変興味深く観覧させていただきました。
英語劇の観覧者が小さい子どもさんからお年寄りの方、もちろん国籍も多様で、みなさん笑顔でした。
なかなか食べる機会のない料理をいただくことができ楽しかったです。
料理がおいしかったです。
いつもいる文芸雑より100倍ぐらい華やかな雰囲気であらましくなりました。






(出典:平成29年度第5回及び第8回グローバル教育カレッジ運営委員会資料より)

② SGU シンポジウム

熊本県内外の大学・高校等の教育機関を中心に112名が参加し、各講演後には活発な意見交換が行われた。参加者の内、53名からアンケートの回答があり、9割以上が参考になったと回答している。また、一部教育関係者からは、今後のグローバル教育活動に関する連携を深めたいとの意見もあり、地域のグローバル化を促進する上で、大いに効果があった(資料Ⅲ-2-3-2)。

資料Ⅲ－２－３－２ SGU シンポジウム実施報告

平成29年度第8回SGU推進本部会議 平成30年3月22日	資料3
----------------------------------	-----

熊本大学スーパーグローバル大学創成支援事業シンポジウム 実施報告

○日時：平成30年3月5日 13:00-17:30
 ○会場：ホテル日航熊本 5F 天草
 ○参加者数：112名

・主な参加者（所属機関）
 高等学校（ルーテル学院中学・高等学校、熊本県立第一高校、熊本県立水俣高校、熊本県立宇土高校 等）
 大学（九州大学、長崎大学、九州工業大学、岡山大学、金沢大学、大阪大学、産業医科大学 等）
 その他（在福岡オーストラリア総領事館、国際教育交流協議会、熊本県貿易協会、熊本県庁、県内企業 等）



学長挨拶



高島副学長 講演



外部講演者（金沢大学） 講演



外部講演者（福井大学） 講演

（出典：平成29年度第8回SGU推進本部会議資料より）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

熊大グローバル Youth キャンパス事業として実施したイベント及びSGUシンポジウムの参加者アンケートの結果において、高い評価を得ているため。

観点 改善のための取組が行われているか。

（観点到に係る状況）

熊大グローバル Youth キャンパス事業として、実施したいいくつかのイベント（サマーフェスタやSoseki Global cafeなど）のアンケートを基に、改善を実施している。

また、SGUシンポジウムにて、参加者からあった意見についても、平成29年度に実施されたSGUの中間評価後の計画変更反映させ、改善の取り組みにつなげている。

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

実施した各イベントの参加者からの意見やアドバイスを、次のイベント改善につなげているため。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

(判定区分)

質を維持している。

(理由)

本学は、平成28年度に発生した熊本地震に対して、熊本復興支援プロジェクトを立ち上げた。グローバル教育カレッジは、熊本復興支援プロジェクトの一環として、「コミュニティーセラピーによる熊本復興支援」という名の企画を立案し、様々なイベントを実施し、多くの方に参加いただき、地震の緊張や疲れなどを軽減することができた。

グローバル教育カレッジは、本学の一組織として、社会貢献における役割を十分に果たしており、改善、向上していると判断できる。

(2) 分析項目Ⅱ 大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

(判定区分)

改善、向上している。

(理由)

本学は、第3期中期目標・中期計画の中で“地域社会のグローバル化を牽引するための様々な学びの場を提供し、多文化共生社会の発展に貢献する”という目標を掲げており、熊大グローバル Youth キャンパス事業を初めとしたグローバル教育カレッジにおける活動は、本学の目標達成に大きく寄与している。また、熊大グローバル Youth キャンパス事業の実施件数及び参加人数は増加傾向にあり、その成果は確実に実績として表れている。

地域の国際化への貢献活動の中核をなす存在として、グローバル教育カレッジはその実行組織としての役割を十分に果たしているため、改善、向上していると判断できる。

IV 国際化の領域に関する自己評価書

1. 国際化の目的と特徴

グローバル教育カレッジは、「熊本大学の国際化に関する基本方針（平成20年10月31日役員会承認）」に基づき、国際化を推進・支援する組織として、熊本大学における国際交流の推進に寄与することを目的としていた熊本大学国際化推進センターの発展的な改組により平成27年3月に設立された。

グローバル教育カレッジの国際化における目的は、各センターの活動を通して、スーパーグローバル大学創成支援事業（以下、SGU）における構想に基づいた活動の推進及び第3期中期目標・中期計画の国際化に関する事項を達成することである。

具体的には、海外ネットワーク拡充の積極的な展開、日本人学生の海外留学促進、外国人留学生（以下、留学生）の受け入れの促進、専門職の教職員の国際通用性の推進、キャンパスのグローバル化及び国際的な情報発信を行っている。

海外ネットワーク拡充の積極的な展開においては、海外交流協定校の新規開拓や「国立六大学連携コンソーシアム」（以下、国立六大学）、「一般社団法人大学コンソーシアム熊本」といったアライアンス交流の強化などを行っている。

日本人学生の海外留学促進においては、多様なニーズに合わせて、多彩な留学プログラムを整備することで、参加を促している。主な留学プログラムには、①国際交流協定に基づく交換プログラム（短期留学プログラム）、②本学独自に企画し、夏季、春季休暇中に実施する海外語学セミナー・文化体験プログラム、③熊本大学国際奨学事業（海外での研究、インターンシップ等）、④官民協働海外留学支援制度（トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム）がある。

留学生の受け入れにおいては、協定校に在学する学部学生が短期の日本滞在を通して、日本の良さ及び熊本大学の留学生としての生活を経験するサマースプリング及びスプリングプログラムの企画・実施をしており、「Jコース（日本語によるプログラム）」だけでなく、「Eコース（英語によるプログラム）」も実施することで、留学生増加を図っている。

専門職の教職員の国際通用性の推進としては、グローバル科目の提供に取り組む教員を支援するため、グローバルFD研修として、協定校や企業等から講師を招へいし、学内にて研修を実施する講師招へい型や他大学で開催される研修に派遣する派遣型の研修などを企画・実施している。また、英語ビジネスライティング支援事業という企画の下で、事務職員向けに学内文書英語化の指導も行っている。

また、グローバル教育カレッジ棟のラウンジやインターナショナルプラザといった日本人学生と留学生の交流する場を設けることで、キャンパスのグローバル化を促進している。

さらに、海外に本学の魅力を伝えるために、多言語（主に英語）によるWebページ、広報物やプロモーションビデオの作成・発信などを行っている。

[想定する関係者とその期待]

グローバル教育カレッジが行う国際化の関係者は、以下のとおり広範囲に及ぶ。

- (1) 留学生を含む在学中の学生及びその家族並びに将来本学への留学が見込まれる海外の学生・生徒及びその家族
- (2) 外国人を含む教職員及び外国人研究者及びその家族
- (3) 交流協定校を含む国内外の教育機関
- (4) 地方自治体、地域住民、企業、国際交流団体その他熊本を中心とした地域の国際活動に様々な形で取り組んでいる関係者

これら関係者からは、本学の目的の一つである“人材の国際流動性を促進する多彩な受入・派遣プログラムを推進し、世界に開かれたグローバル大学”となることが期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

本学の第三期中期目標・中期計画及びSGUにおける目標において、日本人学生の海外派遣及び留学生の人数や協定校の数に関して、目標値が設定されており、グローバル教育カレッジの取り組みにより、増加傾向にある。また、留学生の増加に伴い、教員、コーディネーター等の専門職員を雇用し、専門性の高い業務に対応した。グローバルFD研修や英語ビジネスライティング支援事業などの教育企画を開発・提供し、教職員の外国語能力向上に貢献している。同時にキャンパス全体のグローバル化に努め、多言語・多文化の学生・教職員のニーズに配慮したインフラ改善に取り組んでいる。

【改善を要する点】

グローバル教育カレッジの専任教員をはじめとした多くの教職員の協力を得ながら、積極的に本学学生の国際的な視野を広げるために派遣できる高レベルの協定校を増やし、新規と従来の協定校で交換留学プログラムや海外語学セミナー・文化体験プログラムを設計している。しかし、学生に留学先及びそのプログラムの情報が十分に周知されていない可能性があるため、学生への周知方法について改善検討が必要である。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本学は国際化に関する目標を、第3期中期目標・中期計画に定めており、熊本大学 Web ページにて広く公表している。グローバル教育カレッジは、本学が掲げる国際化に関する中期計画を達成するために、中心的な活動を行っている。(資料IV-1-1)

資料Ⅳ－１－１ 第３期中期目標・中期計画抜粋

(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

①学生の学修を多面的に支援するため、平成 28 年度に附属図書館の再整備と修学支援強化のための指針を策定する。また指針に沿った取組を平成 29 年度から実施する。特に異文化理解や外国人とのコミュニケーションの機会を提供するため、平成 28 年度に学内にインターナショナル広場を設置し、日本人学生と留学生が日常的に交流できる場所を提供する。【計画番号 14】

③本学のグローバル化に伴う学生交流推進のため、平成 30 年度までに学生寄宿舍・国際交流会館の利用環境の整備を行い、日本人学生と留学生との混住型施設にする。

【計画番号 16】

4 その他の目標を達成するための措置

(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置

①グローバルな連携ネットワークを整備・強化するため、海外交流協定校や海外拠点等を新たに開拓し、平成 33 年度までには交流協定校を 300 校程度に拡充する。また、既存の海外オフィス等の機能強化や、「国立六大学連携コンソーシアム」や「一般社団法人大学コンソーシアム熊本」などを通じたアライアンス交流の推進により、留学フェアやセミナー、リクルート活動等をさらに充実させて実施する。【計画番号 38】

②学生に対してより質の高いグローバル教育環境を提供するため、ダブルディグリーやその他の国際連携事業をベースとした教育プログラムを開発する取組を支援し、平成 33 年度までに 8 つの海外連携教育プログラム等を実施する。【計画番号 39】

①大学のグローバル化を促進するため、多彩な受入れ・派遣プログラムの開発・提供により、平成 33 年度までに一年間で外国人留学生の受入れ 1,500 人、また、日本人学生の海外経験 1,000 人を達成する。【計画番号 40】

②教職員のグローバル化を促進するため、海外派遣型研修や集合型・通学型研修などの国際 FD (Faculty Development) ・SD (Staff Development) 研修等を整備し、平成 33 年度末までに教員の参加延べ人数 200 人、職員の参加延べ人数 50 人を達成する。【計画番号 41】

①国際的な研究拠点大学及びスーパーグローバル大学等としての本学の認知度及び社会的評価のさらなる向上を実現するため、社会的ニーズを踏まえた情報発信の強化、双方向性を伴う情報受発信の活性化、学外者の二次的発信を視野に入れ、特に、Web サイト、大学ポータルやソーシャルメディアを活用した情報発信を継続的に充実・強化させる。【計画番号 72】

(出典：熊本大学 Web ページより)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

上記の目的・計画は、本学の Web ページ等で公開され、内外に公表・周知されているため。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

1. 海外ネットワーク拡充の積極的な展開 (計画番号 38)

本学は、第3期中期目標・中期計画にて、グローバルな連携ネットワークを整備・強化するため、海外交流協定校の開拓や国立六大学、一般社団法人大学コンソーシアム熊本といったアライアンス交流の強化を計画しており、グローバル教育カレッジの牽引の下、推進している。

海外交流協定校数については、平成33年度までに300校程度にするという計画を立てており、平成28年度の年度計画においては協定校数を210校とする、平成29年度においては、16校増やすという計画を設定し、2年間で計32校増やし、合計233校となり計画を達成している。なお、グローバル教育カレッジが責任部局となって締結した協定の数は9件であり、計画達成に大きく貢献している。

国内大学アライアンスを活用した広報活動としては、平成28年度に、国立六大学として、ミャンマーでの留学フェア、日本留学 Academic セミナー及び日中大学交流会に参加した。平成29年度には、平成28年度と同様に、ミャンマーでの留学フェアや日中大学交流会に参加するだけでなく、「国立六大学バンコク事務所」の開所式(資料Ⅳ-2-1)にて、参加者に対して、本学の概要や研究情報に関してプレゼンテーションを行い、情報発信をした。

資料Ⅳ-2-1 「国立六大学バンコク事務所」の開所式について

タイ・バンコクにて国立六大学バンコク事務所開所式を挙行

8月21日、タイのバンコク市内において、金沢大学及び国立六大学国際連携機構の主催で、国立六大学バンコク事務所 (SixERS ASEAN Platform : AP-SixERS) 開所式を挙行了しました。式には、在タイ日本大使館の小林茂紀広報文化部長、ASEAN University Networkのチヨルティス・ディラティティ エグゼクティブディレクターほか政府機関、タイの協定校、バンコクに拠点を置く日系企業関係者ら約100人が出席し、開所を祝いました。

この事務所は、千葉大、新潟大、金沢大、岡山大、長崎大、熊本大の国立六大学で組織する国立六大学連携コンソーシアムが、戦略上重要な地域にある大学との交流促進を目的として展開する共用事務所の一つで、平成26年11月の長春事務所(中国・長春)、平成28年8月の欧州事務所(オランダ・ライデン)に続き3つ目の開所となります。

開所式終了後は、引き続き、事務所が入居するKXビル内見学ツアー、バンコク事務所開所記念懇談会が行われ、高島副学長が本学の概要についてプレゼンテーションを行いました。



テープカットの様子

(出典：熊本大学 Web ページより)

さらに、グローバル教育カレッジの教員は、学長もしくは副学長の随行または代理として、学長会議や協定校の式典などに参加することで、海外大学との関係強化に貢献している。平成28年度は、日独共同学長シンポジウム、ベトナム国立ハノイ校ハノイ科学大学60周年記念式典やベトナム・ハノイ建設大学50周年式典に参加、平成29年度は、日本・インドネシア学長会議(資料Ⅳ-2-2)に参加している。

ニュース

第4回 日本・インドネシア学長会議に参加

2017年10月24日(月)～26日(水)の3日間、日本・インドネシア学長会議がインドネシア・スラバヤにて開催されました。日本・インドネシア学長会議は、日本とインドネシアの大学間関係強化を目的として、2012年から開催されており、第1回が名古屋大学(2012年)、第2回がガジャマダ大学(2014年)、第3回が北海道大学(2015年)にて開催されています。

第4回目となる今回は本学の協定校のスラバヤ工科大学を幹事校として開催され、日本側大学29校およびインドネシア側大学55校の学長・副学長など総勢130名以上が参加し、本学からは高島副学長が参加しました。

24日(火)は、スラバヤ工科大学国際課長 Maria Anityasari氏より、日本とインドネシアの教育、研究や産業に関する連携状況および今回の会議の目的について説明がありました。その後、グループA(教育交流)、グループB(研究交流)およびグループC(産学連携)の3つのグループに分かれて、各大学からの取組の事例紹介や今後の活動についてディスカッションが行われました。

25日(水)は、日本側およびインドネシア側の国際化の取組や現状の紹介をテーマに基調講演が行われました。その後、前日のディスカッションを踏まえて、再度グループディスカッションが行われました。

26日(木)は、2日間こわたって行われたグループディスカッションの結果を踏まえた宣誓書が述べられ、会議は閉会となりました。

本学長会議を契機に、日本とインドネシア間のさらなる国際交流の進展が期待されます。なお、次回の日本・インドネシア学長会議は、2019年に広島大学にて開催される予定となっています。



(出典：グローバル教育カレッジ Web ページより)

2. 日本人学生の海外留学促進 (計画番号 40)

学生の多様なニーズに合わせて、多彩な留学プログラムを整備するとともに、参加を推奨した。主な留学プログラムは、①国際交流協定に基づく交換プログラム(短期留学プログラム)、②本学独自に企画し、夏季、春季休暇中に実施する海外語学セミナー・文化体験プログラム、③熊本大学国際奨学事業(海外での研究、インターンシップ等)、④官民協働海外留学支援制度(トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム)である。

3. 留学生受け入れ (計画番号 40)

短期留学プログラムにおいて、従来の「日本語コース」だけでなく、英語のみにより授業を行う「英語コース」を設置し、受入プログラムを充実させることにより、留学生の増加を図った。また、サマープログラム(平成28年度は熊本地震により中止)及びスプリングプログラムにおいても、「Jコース(日本語によるプログラム)」、「Eコース(英語によるプログラム)」の両コースを設置した(資料Ⅳ-2-4)。

更に、受入人数増加に繋がる科学技術振興機構(JST)の「さくらサイエンスプラン」における採択件数は、平成28年度は11件、平成29年度は10件と、採択件数を維持している(資料Ⅳ-2-5)。

資料IV-2-4 2017 サマープログラムフライヤー



(出典： : グローバル教育カレッジ Web ページ)

資料IV-2-5 さくらサイエンスプラン採択件数について

さくらサイエンスプラン実施数 (採択数)

平成28年度

順位	大学名	単年度	複数年度	計
1	岡山大学	19	2	21
2	宮崎大学	11	4	15
3	熊本大学	11	0	11
4	芝浦工業大学	10	0	10
	九州大学	9	1	
	東京理科大学	6	4	
7	名古屋大学	9	0	9
	九州工業大学	8	1	

平成29年度

順位	大学名	単年度	複数年度	計
1	岡山大学	13	2	15
2	芝浦工業大学	14	0	14
3	名古屋大学	11	1	12
4	大阪大学	11	0	11
	東京都市大学	8	3	
6	九州工業大学	10	0	10
	九州大学	10	0	
	熊本大学	10	0	
	宮崎大学	9	1	

(出典：科学技術振興機構さくらサイエンスプラン Web ページより)

4. 専門職の教職員の国際通用性の推進 (計画番号 41)

グローバル教育カレッジは、グローバル科目の提供に取り組む教員を支援するため、グローバルFD研修として、協定校や企業等から講師を招へいし、学内にて研修を実施する講師招へい型の研修を企画・実施している。平成28年度は、ブリティッシュ・カウンシルから講師を招へいし、英語による教授法に関する研修(資料IV-2-6)を実施した。また、平成29年度は、9月及び3月に、米国ワシントン大学(資料IV-2-6)及び株式会社アルクよりそれぞれ講師を招へいし、英語による教授法・アクティブラーニングに関する研修を実施した。

さらに、英語ビジネスライティング支援事業という企画の下で、学内文書英語化の指導を行った(資料IV-2-7)。

資料IV-2-6 グローバルFD研修の実施について

平成28年度 ブリティッシュカウンシル招へい

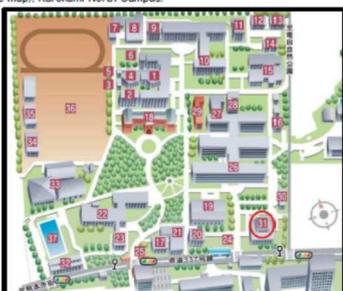
平成29年度 米国ワシントン大学招へい

平成28年度「グローバル教育の推進に係るFD研修」日程表
The Kumamoto University Faculty Development Program For the Globalization of Education

会場: 熊本大学 黒髪北キャンパス グローバル教育カレッジ棟 1A教室
Venue: Classroom 1A, College of Cross-Cultural and Multidisciplinary Studies Building

後期	Day1: 3月21日(火) March 21 (Tue), 2017	Day2: 3月22日(水) March 22 (Wed)	Day3: 3月23日(木) March 23 (Thur)
Theme	講義とプレゼンテーション Essentials	発音とGlobal Englishes Pronunciation and Global Englishes	少人数クラスのプランニングと マネジメント Managing Small Classes
8:45 - 8:55	開講の挨拶 Opening Ceremony		
9:00 - 10:30	Part 1: 準備と構成 Part 1: Organization and structure	Part 1: セッション1 リスニング、発音の特徴を 認識する Part 1: Features of English Pronunciation	Part 1: 教室で使う英語 Part 1: Overview of Small Classes and Classroom Language
10:45 - 12:15	Part 1: 一貫性 Part 1: Coherence	Part 1: セッション2 英語の発音の特徴の分析 および練習 Part 1: Activity and Practice	Part 1: クラスルームマネジメント Part 1: Classroom Management
12:15 - 13:15	昼食 Lunch Break	昼食 Lunch Break	昼食 Lunch Break
13:15 - 14:45	Part 2: ビジュアルを使う Part 2: Using visuals	Part 1: セッション3 日本人学習者にとって難しい点 Part 2: Specific phonetic difficulties for Japanese learners	Part 2: 受講生中心のアプローチ Part 2: Student-Centered Approaches
15:00 - 16:30	Part 2: 実際に行う Part 2: Deliver a presentation	Part 2: セッション4 Global Englishesの聞き取り Part 2: Global Englishes	Part 2: プランニングとステージング Part 2: Planning
16:35 - 16:45			閉講の挨拶 Closing Ceremony

●会場は黒髪北キャンパス グローバル教育カレッジ棟(マップ31番の建物) 1A教室です。
●The program will be held in Classroom 1A, College of Cross-Cultural and Multidisciplinary Studies Bldg. (No. 31 in the map), Kurokami North Campus.

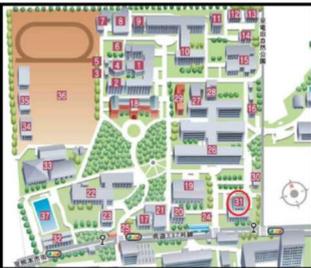


平成29年度「グローバル教育の推進に係るFD研修」日程表
The Kumamoto University Faculty Development Program For the Globalization of Education

会場: 熊本大学 黒髪北キャンパス グローバル教育カレッジ棟 1A教室
Venue: Classroom 1A, College of Cross-Cultural and Multidisciplinary Studies Building

	Day1: 9月11日(月) September 11th (Mon.)	Day2: 9月12日(火) September 12th (Tue.)	Day3: 9月13日(水) September 13th (Wed.)
8:45 - 8:55	開講の挨拶		
9:00 - 12:00	FD morning seminar Introduction / Teaching in an International Classroom / Strengths and Areas for Improvement	FD Morning Seminar Presenting Lessons and Data	FD Morning Seminar Active Learning Strategies
12:00 - 13:30	昼食	昼食	昼食
13:30 - 16:30	FD Afternoon Seminar English Pronunciation	FD Afternoon Seminar Classroom Interaction and Discussion	FD Afternoon Seminar presentation of completion certificates Teaching Demonstrations by Participants
16:35 - 16:45			講師より参加証の授与

●会場は黒髪北キャンパス グローバル教育カレッジ棟(マップ31番の建物) 1A教室です。
●The program will be held in Classroom 1A, College of Cross-Cultural and Multidisciplinary Studies Bldg. (No. 31 in the map), Kurokami North Campus.



(出典: グローバル教育の推進に係るFD研修日程表より)

資料Ⅳ－２－７ 英語ビジネスライティング支援事業



グローバル
教育カレッジ
主催事業

スーパーグローバル大学創成支援

英語ビジネスライティング支援事業

熊本大学事務職員等のみなさんの英語力向上を応援する目的で、下記のとおり英語ビジネスライティング支援を実施します！

本活動は、下記時間割の中で、希望する職員がグローバル教育カレッジを訪れ、教員と英語で対話しながら、英語メール等の添削の機会を通じて、ビジネスライティングのルールの取得、Eメール、ファックス、手紙など、相手や目的に合わせた表現と手段の使い分けの習得を図ることを目的としています。

希望する方は月曜、水曜、金曜の4限目に行きますので、事前に国際戦略課担当まで、連絡のうえ、カレッジ棟1階1D教室へお越しください。活動時間は基本的に4限目の90分間の予定ですが、担当教員の判断により前後する場合があります。

英語力レベルは
問いません！

■期間および実施時間割：2月13日(月)～3月24日(金)の月・水・金曜

実施時間	月	火	水	木	金
担当教員	担当教員	担当教員	担当教員	担当教員	担当教員
4限目 Afternoon time session 14:30- 16:00	マイケル・ムーア Michael Muir		チャン・チェオン・ジュン Chan Cheong Jun		クリストファー・ジョンソン Christopher Johnson

※各曜日の担当教員は予定であり、都合により変更となることがあります。

■場所：グローバル教育カレッジ棟1階1D教室



■対象：熊本大学の事務職員、技術職員、図書職員
(任期付、有期雇用職員を含む)

■方法：①希望者は、事前に担当まで電話もしくはEメールで連絡してください。
②日程調整後、業務上作成する英語メール等をグローバル教育カレッジに持参し、同カレッジ教員による添削を受けることができます。
*留学生・外国人研究者及び海外の大学等とのEメールや手紙等

■留意事項：実施期間中は、何度でも添削を受講することができます。
ただし、日本→英語、英語→日本語の翻訳は受け付けません。

【担当】
国際戦略課(全学教育棟2F)
Tel: 096-342-2108, 2101
Email: kuglobal@jim.kumamoto-u.ac.jp

(出典：英語ビジネスライティング支援事業フライヤー)

5. キャンパスのグローバル化(計画番号16)

平成28年3月に「グローバル教育カレッジ棟」を整備し、留学生と日本人学生の修学、交流スペースを確保するとともに、地域のグローバル人材交流の場としても活用できるようハード面での充実を図った。

6. 情報発信(計画番号73)

グローバル教育カレッジ Web ページは、日本語と英語で情報発信をしている。また、SNS (Facebook) を利用し、英語による情報発信を積極的に行っている。さらに、SGU に関する広報物(資料Ⅳ-2-8)、留学生誘致を強化するための多言語(英語、インドネシア語及びフランス語)のプロモーションビデオやポスター(英語)を作成するなどの広報活動を行っている。(資料Ⅳ-2-9)。

文部科学省 スーパーグローバル大学創成支援事業
「地域と世界をつなぐ、グローバル大学Kumamoto」
広報誌 2016

熊本大学
Kumamoto University

世界で働きたい君へ。
熊本大学の新しい国際教育が始まります。



懇話会：原田学長×高校生
新しい時代を生きる高校生と話したい、
熊本大学のグローバル化のこと。

留学生体験生インタビュー
早く体験して欲しい、留学の価値。

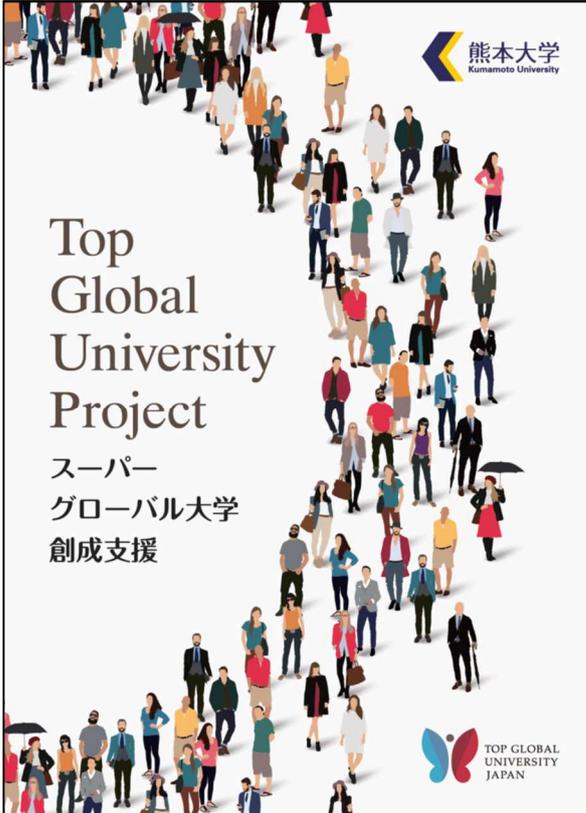
グローバル科目
熊本にいながら、世界に学ぶ。

TOP GLOBAL UNIVERSITY JAPAN

熊本大学
Kumamoto University

Top Global University Project

スーパー
グローバル大学
創成支援



TOP GLOBAL UNIVERSITY JAPAN

(出典：<http://www.c3.kumamoto-u.ac.jp/college/publication/>)

資料IV-2-9 グローバルな情報発信と広報活動について

グローバルな情報発信と広報活動

○多言語版ホームページ、SNSによる情報発信

大学多言語版ホームページの改修及びグローバル教育カレッジホームページ新設を実施した。大学HPは英語、中国語、韓国語に対応し、カレッジHPは全ページ日英一対表示にて情報を提供している。また、SNS(Facebook、Twitter)を通じた英語による情報発信も積極的に行っている。

○留学生受入拡大プロモーションビデオ・ポスター

多言語(英語、中国語、インドネシア語、フランス語)により制作。ホームページで公開するとともに、交流協定校への訪問や各種留学フェア等の行事において積極的に活用している。また、ポスターを関連大学等に送付。

○日本留学フェア等海外における広報活動

日本学生支援機構(JASSO)主催の「日本留学フェア」に参加。台湾、韓国、ミャンマー、ベトナム、インドネシア、タイ、マレーシアなどにおいて留学生招致を積極的に実施。また、アジア、アフリカ、ヨーロッパに8つある海外オフィスを利用した広報活動も、現地の繋がりを生かし効果的に行っている。



多言語版HP 研究プレスリリース、イベント、国際交流情報等を発信



Facebook 留学生向けイベントや生活情報等を発信



留学プロモーションビデオ
キャンパスライフや熊本での生活について、留学生の視点で紹介



海外からの留学促進用ポスター



日本留学フェア(インドネシア)
海外オフィスの現地スタッフも参加し学生へ説明



海外大学訪問PR活動
近隣大学に訪問し広報活動を行うインドネシアITSオフィススタッフ

(出典：SGU シンポジウム資料より)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

計画に基づいた活動を適切に実施しているため。

観点 活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して活動の成果があがっているか。

(観点に係る状況)

1. 海外ネットワーク拡充の積極的な展開 (計画番号 38)

平成 28 年度～29 年度の 2 年間でグローバル教育カレッジが締結した 9 校の協定の内、4 校は新しい国 (アイルランド、ラトビア、カンボジア、ブルキナファソ) であった。

アイルランドやラトビアは、学生に人気があるヨーロッパ地域であり、特に、ラトビアについては、ヨーロッパ地域では比較的安価な海外語学セミナー・文化体験プログラムを準備した。

2. 日本人学生の海外留学促進 (計画番号 40)

平成 28 年度は、熊本地震により、夏季休業が 2 週間に短縮されたため、日本人学生の派遣数が伸び悩み、552 人と目標値 700 人を下回った。しかし、各種派遣プログラムの実施により、平成 29 年度は、706 人と前年度を大きく上回り、目標値 710 人をほぼ達成し、大きな成果があった。なお、平成 28 年度から平成 29 年度にかけて、短期留学プログラム、海外語学セミナー・文化体験プログラム及び熊本大学国際奨学事業の派遣人数については、増加傾向にあった (資料Ⅳ-3-1)。また、トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラムの採択件数についても、平成 28 年度は 18 件、平成 29 年度は 20 件と増加傾向にある (資料Ⅳ-3-2)。

資料Ⅳ－３－１ 日本人学生の海外留学促進について

日本人学生の海外留学促進

日本人学生の海外派遣数

年度	学部生	大学院生	合計
H25	151	239	390
H26	174	169	343
H27	203	150	353
H28	241	115	356
H29	480	240	720

○ 交換留学(短期留学プログラム)

年度	派遣人数	派遣国・大学
H26年度	18人	リーズ大学(英国)、モンタナ州立大学(米国)、ニューカッスル大学(オーストラリア)、ポルドー大学連合(フランス)、ボン大学(ドイツ)
H27年度	20人	リーズ大学(英国)、モンタナ州立大学(米国)、ニューカッスル大学(オーストラリア)、ポルドー大学連合(フランス)、ザールラント大学(ドイツ)、同濟大学(中国)、南台科技大学(台湾)、ガジャマダ大学(インドネシア)、マレーシア理科大学(マレーシア)等
H28年度	22人	リーズ大学(英国)、ニューカッスル大学(オーストラリア)、モンタナ州立大学(米国)、ポルドー大学連合(フランス)、同濟大学(中国)、ワルシャワ大学(ポーランド)、ザールラント大学(ドイツ)等
H29年度	31人	リーズ大学(英国)、ニューカッスル大学(オーストラリア)、モンタナ州立大学(米国)、ポルドー大学連合(フランス)、ザールラント大学(ドイツ)、チューリッヒ大学(スイス)、ワルシャワ大学(ポーランド)、ベトナム貿易大学(ベトナム)、東亞大学校(大韓民国)、マカオ大学(中国)等

○ 海外語学・文化体験プログラム

夏休みや春休みを利用した本学独自の2週間～1ヶ月程度の短期派遣プログラム

H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
派遣大学名(国)	参加人数	派遣大学名(国)	参加人数	派遣大学名(国)	参加人数	派遣大学名(国)	参加人数
アルバータ大学(カナダ)	38	アルバータ大学(カナダ)	32	ニューカッスル大学(豪州)	7	アルバータ大学(カナダ)	24
ニューカッスル大学(豪州)	25	ニューカッスル大学(豪州)	30	モンタナ州立大学(米国)	6	モンタナ州立大学(米国)	8
フライブルク大学(ドイツ)	23	フライブルク大学(ドイツ)	5	フライブルク大学(ドイツ)	10	ニューカッスル大学(豪州)	9
カリフォルニア大学ロサンゼルス校(米国)	30	カリフォルニア大学ロサンゼルス校(米国)	18	リーズ大学(英国)	8	フライブルク大学(ドイツ)	1
ハワイ大学マノア校(米国)	6	モンタナ州立大学(米国)	8	マッセー大学(ニュージーランド)	8	リーズ大学(英国)	18
		リーズ大学(英国)	7	アテネオデマニラ大学(フィリピン)	22	マッセー大学(ニュージーランド)	9
		マッセー大学(ニュージーランド)	6			アテネオデマニラ大学(フィリピン)	10
参加人数 計	122	参加人数 計	106	参加人数 計	61	参加人数 計	79

日本人学生の海外留学促進

外部資金として、官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPANプログラムやJASSO海外留学支援制度等による奨学金獲得を積極的に推進

○ 熊本大学国際奨学事業

海外語学セミナー、交換留学のほか、学生自身が企画提案した海外での学習・研究活動を支援。

採用人数：100人程度
奨学金支給額：1人当たり20万円程度

熊本大学国際奨学事業による派遣支援数(年度別)

	H26年度 (2014)	H27年度 (2015)	H28年度 (2016)
派遣人数(人)	97	84	87

(出典：SGU シンポジウム資料より)

資料Ⅳ－３－２ トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム申請・採択状況

第4期から第8期までの熊本大学コース別応募者及び採用者

採用者/応募者	理系、複合・融合系 人材コース	多様性人材 コース	世界トップレベル 大学等コース	新興国コース	地域人材コース	合計	
第4期 (平成28年度前期)	4/9 (6)	1/5 (2)	3/5 (5)	0/0 (0)	—	8/19 (13)	文学部:4名 自然科学研究科:4名
第5期 (平成28年度後期)	6/7 (7)	0/7 (2)	0/3 (1)	0/1 (0)	4/5 (4)	10/23 (14)	文学部:1名/工学部:3名/薬学部:1名 医学部保健学科:1名 自然科学研究科(前期):3名/保健学教育部(前期):1名
第6期 (平成29年度前期)	6/10 (8)	3/7 (5)	1/3 (2)	0/0 (0)	—	10/20 (15)	文学部:2名/教育学部:1名/理学部:1名/工学部:1名 自然科学研究科:(博士前期)5名
第7期 (平成29年度後期)	5/12 (8)	2/5 (2)	1/6 (3)	0/3 (1)	2/2 (2)	10/28 (16)	文学部:3名/工学部:1名/教育学部:1名 自然科学研究科:(博士前期)4名 社会文化科学研究科:(博士前期)1名
第8期 (平成30年度前期)	3/3 (3)	0/3 (0)	1/4 (1)	0/3 (0)	—	4/13 (4)	教育学部:1名 自然科学研究科:3名

※()内の人数は書面審査合格者数

(出典：国際教育課作成)

3. 留学生受け入れ（計画番号 40）

各種派遣プログラムの実施により、本学の留学生の受入数は、平成 28 年度 928 人（目標値 1000 人）と、熊本地震の影響により、目標値をやや下回ったが、平成 29 年度は、1187 人（目標値 1100 人）と目標値を上回り、大きな成果があったといえる。

また、平成 28、29 年度に、計 8 回の短期受入プログラムを実施した。東アジア、ASEAN 諸国及び欧米国から計 218 名の留学生が参加した。座学や見学旅行等の様々な活動を通じて、日本語及び日本文化を体験した。また、英語によるサマープログラム及びスプリングプログラムでは、留学生と高校生との国際交流活動イベントを企画し、留学生は講義や見学旅行で学んだことを発表し、熊本県内の高校生と英語でディスカッションを行った。

さくらサイエンスプログラムについても、参加人数は増加傾向にあり、成果を上げている。

4. 専門職の教職員の国際通用性の推進（計画番号 41）

平成 28 年度は、ブリティッシュ・カウンシルから講師を招へいし、英語による教授法に関する研修を実施した。計 13 名の教員が参加し、発音方法や学生の意見を効果的に引き出すための表現・アプローチ方法等を学んだ。平成 29 年度は、9 月及び 3 月に、米国ワシントン大学及び株式会社アルクよりそれぞれ講師を招へいし、英語による教授法・アクティブラーニングに関する研修を実施し、合計 32 名（県内他大学の教員含む）が参加した。熊本大学だけでなく、熊本県内の大学のグローバル化にもつながった。

また、グローバル教育カレッジの教員が行う英語ビジネスライティング支援事業は、平成 28 年度に延べ 15 名、平成 29 年度に延べ 8 名が利用し、学内のグローバル化推進に貢献した。

5. キャンパスのグローバル化（計画番号 16）

グローバル教育カレッジ棟は多くの留学生・日本人学生・地域のグローバル人材に利用され、修学と交流の場として活用されている。平成 29 年度においては、計 55 回のイベントが行われ、ラウンジ使用人数は、1,934 名、教室イベントで 2,332 名となっている。

6. 情報発信（計画番号 73）

留学準備時から在学中、卒業・就職に至るまで、多様なニーズに対応するきめ細かい情報発信を行うため、平成 26 年度には、多言語版 Web ページの改修、本事業 Web ページ（グローバル教育カレッジ Web ページ）、留学生支援に特化した Facebook ページの開設を実施した。平成 28 年熊本地震においては緊急度の高い情報やメンタルケア等の情報の発信を英語にて適時に行い、留学生への生活支援に大きな役割を果たした。

（水準）

期待される水準を上回る

（判断理由）

グローバル教育カレッジの活動により、協定校数及び留学生数が伸びている。また、教員の英語による教授力向上のための講師招へい型のグローバル FD 研修の実施や事務職員向けに行っている英語ビジネスライティング支援事業などにより、大学における国際化を推進しているため。

観点 改善のための取り組みが行われているか。

(観点に係る状況)

1. 海外ネットワーク拡充の積極的な展開 (計画番号 38)

平成 28 年度～29 年度の 2 年間でグローバル教育カレッジは、9 校の協定校を締結しており、本学の中期計画である平成 33 年度までには交流協定校を 300 校程度に拡充する計画に大きく貢献している。さらなる協定校拡充のため、国内外の高等教育・留学フェアのイベントに参加し、人的ネットワークの構築を行っている。

2. 日本人学生の海外留学促進 (計画番号 40)

本学の中期目標である平成 33 年までに日本人学生の海外経験 1,000 人を達成するため、グローバル業務を担当する高度専門スキルを有した有期雇用職員である国際事業戦略コーディネーターを活用し、カレッジ教員とコーディネーターとの連携により、学生の能力・目標・ニーズ等を両立させた留学プログラムを企画・開発を行っている。また、派遣学生への経済支援策の拡充のため、を旨とし、日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度等の外部資金プログラムを企画して派遣学生への経済支援策の拡充を目指している。

また、学内の危機管理体制や、保護者との連絡体制を更に強化し、海外留学中の学生の確実な安否情報の確認と、大学からの安全対策情報の提供など、連携をより強化することで、学生、保護者の留学に対する心理的なハードルを下げる取り組みを行っている

3. 留学生受け入れ (計画番号 40)

本学の中期目標である大学のグローバル化を促進するため、平成 33 年度までに一年間で留学生の受け入れ 1,500 人を達成できるように、多彩な受け入れプログラムの開発し、大学の多言語 Web ページに掲載し、広報している。また、改善アンケートを実施し、プログラムの改善に役立っている。

4. 専門職の教職員の国際通用性の推進 (計画番号 41)

これまで外部から講師を招へいし、学内にて研修を実施していた講師招へい型のグローバル FD 研修を、グローバル教育カレッジ教員が独自に企画・実施できるよう計画を進めている。

5. キャンパスのグローバル化 (計画番号 16)

グローバル教育カレッジ棟内の整備以外に、インターナショナルプラザをより積極的に利用し、留学生・日本人学生・地域のグローバル人材の修学と交流の場として活用する。

6. 情報発信 (計画番号 73)

国際的な研究拠点大学及びスーパーグローバル大学等としての本学の認知度及び社会的評価のさらなる向上を実現するため、社会的ニーズを踏まえた情報発信の強化、双方向性を伴う情報受発信の活性化、学外者の二次的発信を視野に入れ、特に、Web サイトやソーシャルメディアを活用した情報発信を継続的に充実・強化させる。

また、グローバルリーダーコース (以下、GLC) と本学全体のグローバル化を国内外にアピールするために、GLC 生による活動報告やグローバル教育カレッジの活動をテーマとした広報誌の作成を計画している。

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

各活動において、改善の取り組みを行っているため。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

(判定区分)

大きく改善、向上している

(理由)

グローバル教育カレッジは、様々なプログラムの企画や受入体制の構築などを行い、日本人学生の海外派遣促進及び留学生受入数の増加に大きく貢献しており、第3期中期目標・中期計画における平成28年度及び平成29年度の年度計画に掲げる留学生受入数については目標を達成している。派遣に関して、目標達成のため、様々な施策に取り組んでいる。

グローバル教育カレッジ棟は、多くの留学生・日本人学生・地域の方々に利用され、修学と交流の場として活用されており、本学及び地域のグローバル化に大きく貢献している。以上により、「大きく改善、向上している」と判断できる。

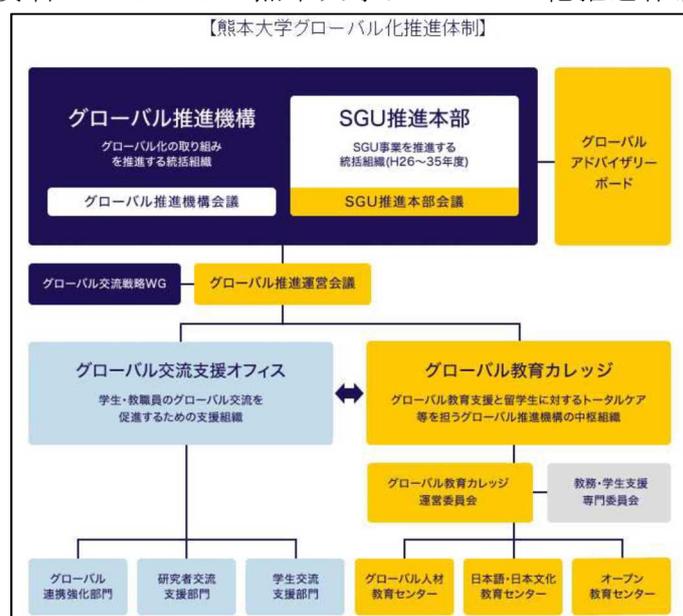
V 管理運営に関する自己評価書

1. 管理運営の目的と特徴

グローバル教育カレッジは、本学の教育のグローバル化を先導する役割を持ち、平成26年度に採択されたスーパーグローバル大学創成支援事業(以下、SGU)の構想に基づき、設置された。それまでの国際化推進センターの機能と役割を大きく拡充させ、英語による科目の充実と学生の海外留学促進、外国人留学生(以下、留学生)受入促進のための日本語教育の強化、そして地域や高等学校・高等専門学校との連携によるグローバル教育の浸透などを実践するために、「グローバル人材教育センター」、「日本語・日本文化教育センター」及び「オープン教育センター」の3つの特徴的な部門によって編成されている(資料V-1-1)。

グローバル教育カレッジは、グローバル推進機構会議及びグローバル推進運営会議で決定された全学的な事項の実施に関する審議を行い、国際化に関する施策を迅速かつ円滑に実施している。また、グローバル教育カレッジ運営委員会(以下、運営委員会)と教務・学生専門委員会(以下、専門委員会)を設けており、運営委員会では、カレッジの業務、施設、予算やその他管理運営に関することについて審議を行っている。専門委員会では、①留学生及び海外留学を希望する学生に対する教務、修学上及び生活上の指導・支援に関すること、②短期留学に関すること、③海外からの留学生及び研究者用の宿舎である熊本大学国際交流会館(以下、国際交流会館)に関すること、④その他専門委員会の運営に関する必要な業務に関して必要な事項について審議を行い、実施している。さらに、国内外で行われる留学フェアや進学説明会への参加、海外の協定校訪問等、留学生を対象とした多彩なプログラム及びグローバルリーダーコース(以下、GLC)の入試・課外活動に関する企画・運営も行っている。

資料V-1-1 熊本大学グローバル化推進体制



(出典：SGU 中間評価調書より)

[想定する関係者とその期待]

(想定する関係者)

学部生、GLC 生、本学への留学を希望する外国人学生、本学に在籍する留学生、海外留学を希望する日本人学生、外国人教員・研究者、学内各部局の教職員・学生、国内外の大学・教育研究機関、県内の高等教育機関やその連携組織、自治体、経済団体、企業及びNPO等(関係者の期待)

本学の国際化を持続的に展開していくために、グローバル教育カレッジが主体となって取り組む事業や施策から様々な関係者がそれぞれより多くのメリットを享受できるよう、組織の管理運営が適切且つ効果的に行われることが期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

大学の国際化を推進する上で十分な体制が整備されている点である。

まず、副学長（国際交流担当）がグローバル教育カレッジ長を兼ねることにより、グローバル推進機構会議・グローバル推進運営会議と同様、副学長がグローバル教育カレッジ運営委員会の議長に任じられており、国際関連の施策、事業、懸案等について全て把握し統括することができる仕組みとなっている。

また、3つのセンターにおけるセンター長は専任教員が担い、運営・専門委員会の委員として、国際化に関する全学的事項の審議を行い、施策を実施している。専任教員であるため、グローバル教育カレッジの教育及び管理運営活動を優先させることができる。さらに、センター長が指名する副センター長を置き、短期留学専門委員会をはじめ学内外の委員会への参画・運営や留学生の受入れ・派遣等に関する各種事業の企画・実務について、センター長の職務を補佐している。

さらに、教員、専門職員（国際事業戦略コーディネーター、国際業務推進オフィサー（分散キャンパス対応の国際業務専門の有期雇用職員であり、各部局におけるグローバル化のための取り組みに対して支援を行っている）及び事務職員（国際戦略課及び国際教育課）が一体となって、大学の国際化を支援・推進する体制を構築している。

【改善を要する点】

3つのセンターの連携による相乗効果を十分に発揮できていない点である。

グローバル教育カレッジは、SGUの中核組織として、3つのセンターで事業の目的達成に向けた取組を進めているが、成果指標を下回る取組も存在している。その理由の一つとして、各センターがそれぞれ特徴的な役割を有し、優れた成果をもたらしているにもかかわらず、個別に活動を行っているため、センター間の連携とその相乗効果が十分に発揮されていないことが挙げられる。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること

観点 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

（観点到係る状況）

グローバル教育カレッジには、目的の達成を支援する管理運営組織として、運営委員会がある（資料V-1-1）。また、グローバル教育カレッジを支援する事務組織として、国際戦略課及び国際教育課がある。

危機管理に関する体制としては、留学生へは、来日時に生活支援オリエンテーション等を実施し、生活上の安全管理を指導しており、警察署の協力を得て法令遵守の指導も併せて行っている。

日本人学生の海外留学時には、危機管理サービスに加入させ、24時間対応でのサポートを提供している。また、基本的な対応を記載した「熊本大学危機管理マニュアル（派遣編）」を整備している（資料V-1-2）。

更に、国際交流会館では、常駐担当者が不在である休日や深夜において、警備会社が常駐することで、緊急事態には事務スタッフへ連絡がとれるよう体制を整備している。

資料V-1-1 グローバル教育カレッジ規則抜粋

<p>(運営委員会)</p> <p>第12条 カレッジに、熊本大学グローバル教育カレッジ運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。</p> <p>第13条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。</p> <p>(1) カレッジ長</p> <p>(2) 副カレッジ長</p> <p>(3) 副センター長</p> <p>(4) カレッジの専任教授</p> <p>(5) 人文社会科学系、自然科学系及び生命科学系の各分野ごとに学長が指名する教授 各1人</p> <p>(6) その他カレッジ長が必要と認めた者 若干人</p> <p>2 前項第5号及び第6号の委員は、学長が委嘱する。</p> <p>3 第1項第5号及び第6号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。</p> <p>4 第1項第5号及び第6号の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。</p> <p>(審議事項)</p> <p>第14条 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。</p> <p>(1) カレッジの業務に関すること。</p> <p>(2) カレッジの施設及び予算に関すること。</p> <p>(3) その他カレッジの管理運営に関する重要事項</p>
--

(出典：グローバル教育カレッジ規則より)

資料V-1-2 国際交流における熊本大学危機管理マニュアル（派遣編）

<table border="1"> <tr> <td>部局長等連絡調整会議</td> <td>資料3</td> </tr> <tr> <td>平成30年4月26日</td> <td></td> </tr> </table>	部局長等連絡調整会議	資料3	平成30年4月26日	
部局長等連絡調整会議	資料3			
平成30年4月26日				
<p>国際交流における 熊本大学危機管理マニュアル（派遣編）</p>				
<p>平成30年4月</p> <p>熊本大学</p>				
<p>10</p>				

(出典：平成30年度第1回部局長等連絡調整委員会資料より)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

管理運営のための組織及び事務組織は、各種規定により適切な規模と機能を持っている。また、グローバル教育カレッジ長のリーダーシップの下、危機管理規則を遵守し、適正に運用を行っている。

観点 構成員（教職員及び学生）、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

グローバル教育カレッジの目的を達成するために意思決定を行う組織の任務と構成については、グローバル教育カレッジ規則に定めがある（資料V-1-1）。

運営委員会は毎月開催し、国際化に関する施策の迅速かつ円滑な実施を推進している（資料V-2-1）。また、運営委員会の下に、専門委員会を設置し、留学生及び海外留学を希望する日本人学生に対する教務、修学上及び生活上の指導・支援に関することなど、短期留学に関すること、国際交流館に関することを審議している。

学生の意見やニーズの把握として、窓口での対応による情報収集、指導教員を通じた情報伝達、国際交流会館常駐担当者による業務日誌等があり、得られた情報は速やかにカレッジ長等による審議を経て各委員会において審議し、改善に向けた対応を実施している。

資料V-2-1 グローバル教育カレッジ運営委員会平成29年度議題一覧

No	開催回数	開催日	審議事項	報告事項
1	H29年度第1回	H29.4.26	非常勤講師任用計画の変更について	グローバル教育カレッジ教員人事について H29年度IELTS講座について 第1ターム Multidisciplinary Studies履修状況について 外務省対日理解促進交流プログラムについて 運営委員会の開催日程について
2	H29年度第2回	H29.5.19	H29年度熊本大学国際留学事業の実施について	カレッジ業務教員の変更について 平成29年度第1ターム Multidisciplinary Studies授業について H29年度国際留学事業の報告について
3	H29年度第3回	H29.6.16	平成28年度グローバル教育カレッジ決算報告及び平成29年度グローバル教育カレッジ予算案について	平成29年度(日本語)サマープログラムの実施について グローバルリーダーコースについて 2017年度前期日本語クラス受講者数について スーパーグローバルハイスクール夏期研修の実施について 熊本大学グローバルYouthキャンパス主催「Go Global Workshop」の実施について サマーフェスタの実施について 平成29年度日本留学フェア・進学説明会について 教育研究開発特別支援学級との交流授業について スーパーグローバル大学創成支援事業中間評価報告について
4	H29年度第4回	H29.7.21	スーパーグローバル大学創成支援事業による国費外国人留学生の選考について	トビタテ留学JAPANの第7期までの採択状況及び第8期の募集について 平成29年度夏期 海外語学研修&文化体験プログラム(海外語学セミナー) 実施状況について スーパーグローバル大学創成支援事業中間評価報告について
5	H29年度第5回	H29.9.15	グローバル推進機構等の改組について 短期留学プログラム及び日本語日本文化研修プログラム修了認定について Soseki Global Cafeの実施について スタジオリブプログラムの実施について	サマープログラムの報告について オープン教育センター グローバルYouthキャンパス事業実施報告 平成30年度グローバルリーダーコースの選修状況について 運営委員会の開催日程について
6	H29年度第6回 (書面)	H29.10.4 ~ 10.12	ウェータフォード工科大学(アイルランド)との大学間交流協定(学術・学生)の締結について ベルリン技術経済大学(ドイツ)との大学間交流協定(学術・学生)の締結について サンティアゴ・デ・コンポスタラ大学(スペイン王国)との大学間交流協定(学術・学生)の締結について	
7	H29年度第7回	H29.10.27	熊本大学教員の任期に関する規則の改正について 国際留学事業(追加配分費)について 危機管理マニュアル(原簿)の改定について	グローバル推進機構等の改組について 専任教員人事について (回収資料) 平成29年度留学生実地研修旅行について Go Global Workshopについて
8	H29年度第8回	H30.11.17	グローバル教育カレッジ規則の一部改正について グローバル教育カレッジ教員の兼任について	IELTS講座及びJLPT試験実施実施報告 Soseki Global Cafe実施報告 熊本大学留学生交流パーティについて 留学支援セミナーについて 多文化共生留学生シンポジウムについて
9	H29年度第9回	H29.12.22	グローバル教育カレッジ長候補者推薦要項(案)について 平成30年度非常勤講師任用計画について グローバル教育カレッジ行動計画について 平成30年度グローバル教育カレッジIELTS講座実施要項について	日本語クラス受講者数・延べ受講コマ数の推移について
10	H29年度第10回 (書面)	H30.1.9	ウェータフォード工科大学(アイルランド)との大学間交流協定(学術・学生)の締結について ベルリン技術経済大学(ドイツ)との大学間交流協定(学術・学生)の締結について サンティアゴ・デ・コンポスタラ大学(スペイン王国)との大学間交流協定(学術・学生)の締結について	
11	H29年度第11回	H30.1.19	グローバル教育カレッジ長候補者推薦要項(案)の一部改正について 平成30年度非常勤講師任用計画の変更について 日本語教員(原簿)の実施について	特任人事について 短期留学プログラムに関する意見について
12	H29年度第12回	H30.2.23	グローバル教育カレッジ教員の兼任について	グローバル教育カレッジ長選挙結果について トビタテ留学JAPAN(第8期)採択者について
13	H29年度第13回 (書面)	H30.3.16 ~ 3.26	大学推薦(一般枠)の国費外国人留学生の選考について	
14	H29年度第14回	H30.3.30	平成30年4月1日付け組織の設置等に伴う規程等の改正について グローバル教育カレッジ長候補者推薦要項の廃止及び制定について 短期留学プログラム先修認定について 大学推薦国費外国人留学生(日本語・日本文化研修留学生)の選考について 熊本大学とリガ工科大学(ラトビア)との間における大学間交流協定(学術・学生)の締結について	グローバル教育カレッジ業務教員について 寄付金の受入れについて 第4回IELTS講座の実施報告について 2018年スタジオリブプログラムの実施報告 2018年サマープログラムの実施について イングリッシュ・トークモンの実施について 短期留学プログラムにおける新コースの開設について 国際留学事業について 危機管理マニュアル(原簿)について

(出典：国際戦略課にて作成)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

グローバル教育カレッジの目的を達成するための迅速かつ効果的な意思決定が行える会議体として、運営委員会及び専門委員会があり、カレッジ内外の関係者からの管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されている。

観点 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取り組みが組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

管理運営に関わる資質の向上を目的に、事務系職員は、平成 28 年度に九州地区の国立大学法人が主催する「九州地区国立学校会計事務研修」に 1 名が参加している。また学内の研修については、熊本大学共通スキル育成研修、旅費説明会や労務研修など、業務を担当する者が積極的に参加し、資質の向上を図っている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

管理運営に関する学内外の研修に積極的に参加し、組織的、継続的な資質の向上に取り組んでいる。

分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

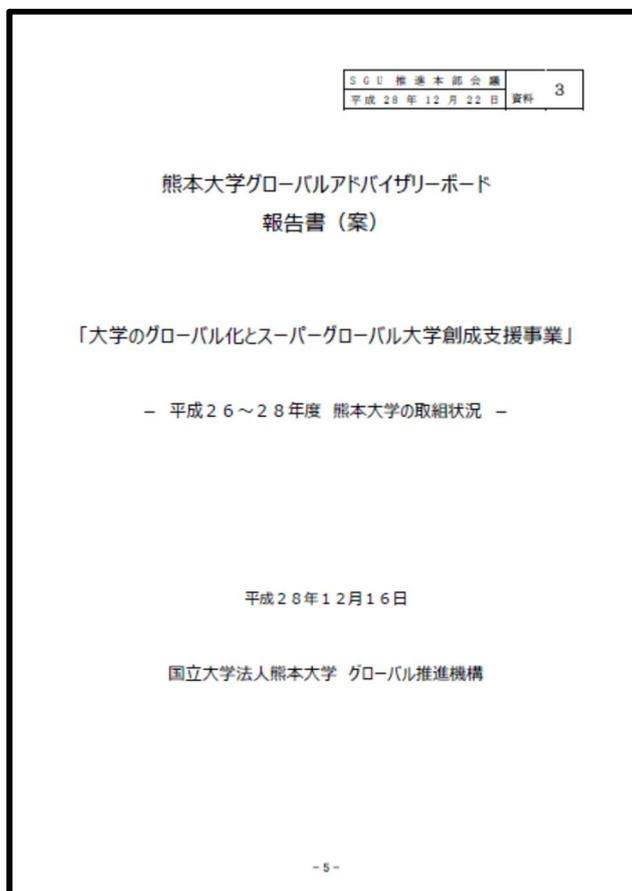
観点 活動の総合的な状況について、根拠となる資料・データ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

(観点に係る状況)

平成 29 年 1 月に実施された「平成 28 年度熊本大学グローバルアドバイザリーボード」(以下、グローバルアドバイザリーボード)に向けて、本学の国際化に関する取り組みを報告書として作成した。グローバルアドバイザリーボードとは、本学が目指すべきグローバル化を適切な方向へ進めていくうえでの有益な意見や助言を得るために、設置された海外大学からの外国人委員 2 人を含む 5 人の学外委員から成る外部委員会である。グローバル教育カレッジの活動も含めた本学の国際化に関する取り組みを報告書にまとめることにより、グローバル教育カレッジの活動の総合的な状況に関する自己点検・評価を行った(資料 V-4-1)。

また、同様に、SGU の中間評価調書を作成することでも自己点検・評価を行った。

資料 V-4-1 グローバルアドバイザリーボード報告書



(出典：平成 28 年度第 4 回 SGU 推進本部会議資料より)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

グローバルアドバイザリーボードに向けた報告書及び SGU の中間評価調書の作成を通して、グローバル教育カレッジの活動の総合的な状況に関する自己点検・評価を行っているため。

観点 活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

（観点に係る状況）

平成 29 年 1 月に実施されたグローバルアドバイザーボードにて、グローバル教育カレッジの活動も含めた本学の国際化に関する取り組みを報告し、意見交換を行うとともに、多くの有益な助言を得た。（資料 V-5-1）

資料 V-5-1 グローバルアドバイザーボード 委員からのグローバル教育カレッジの活動に関する意見・提言項目（内部公開された資料からの引用）

○マーク・ウィリアムズ（英国・リーズ大学 教授）
組織運営とガバナンス改革について：
「効果的で、且つ、グローバルな教育環境を実現させるために、教員に対して、明確な人事評価システムを確立することが重要である。」

○マルセロ クロダ（米国・テュレレン大学 教授）
国際通用性の高い学部教育システムの導入について
「日本で働く本留学生たち日本人学生の海外留学促進では、外国人との関わりに慣れる機会を日本人学生に与えることができるよう、多様性に富んだグローバルキャンパスを提供することで、日本人学生が海外へ出て行く際のハードルは下がるのではないか。」

○渡辺 美代子（国立研究開発法人科学技術振興機構 副理事 ダイバーシティ推進室長兼科学コミュニケーションセンター長）
「…国際通用性の高い学部教育システムの導入について
日本人学生の海外留学を促進するために、留学の意義を日本人学生にしっかりと伝えるべきである。現在留学している学生など、これから留学を目指す学生に、年齢的にも立場的にもより近い存在である先輩学生や大学院生等に、直接語りかけてもらうことが重要である。」

○園田 隆則（モーリーン&マイク・マンズフィールド財団 シニア・フェロー）
世界に開かれた地域づくりを牽引するグローバルキャンパスの提供について
「…グローバル化を日本国内が進める上で大切なことは、地方の人たちにいかにグローバル化が重要かということを教え、認識してもらうことである。その観点から見れば、「熊大グローバル Youth キャンパス事業」は大変素晴らしい取組だと評価している。地方にグローバル化の重要性を伝えることで、将来の日本のグローバル化に大きな影響を与えることができる。「熊大グローバル Youth キャンパス事業」をはじめとして、熊本大学が地方のグローバル化を牽引するような取組を今後も積極的に推進してほしい。」

○三島 良直（東京工業大学長）
新学部構想から発展的に転換されたグローバルリーダーコースは非常に有意義な試みである。地域のグローバル化を含めた取組が熊本大学の非常に良い特徴だと評価している。

（出典：熊本大学 Web ページより）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

グローバルアドバイザーボードを開催し、グローバル教育カレッジが大学の国際化を推進するために行う活動について助言・提言を受けたため。

観点 評価結果がフィードバックされ、改善のための取り組みが行われているか。

(観点に係る状況)

平成 29 年 1 月に実施されたグローバルアドバイザーボードにおける提言（資料 V-5-1）及び SGU の中間評価や学内の自己点検・評価について、SGU の中間評価後の計画変更に反映することで、改善の取り組みにつなげている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

グローバルアドバイザーボード及び SGU の中間評価や学内の自己点検・評価について、SGU の中間評価後の計画変更に反映することで、改善の取り組みにつなげているため。

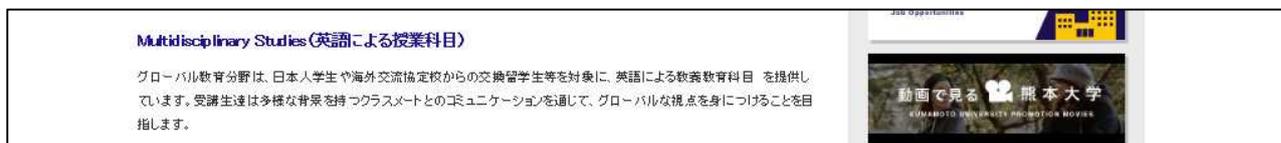
(3) 分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

観点 目的（学士課程であれば学部、学科または課程ごと、大学院であれば研究科または専攻等ごとを含む。）が適切に公表されるとともに、構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

(観点に係る状況)

グローバル教育カレッジは、熊本大学のグローバル教育の推進支援、留学生の修学を行っている。また、Multidisciplinary Studies の提供や GLC の教育支援などの実施しており、これらの目的に関しては、Web ページ及びパンフレットなどにて広く公表している。（資料 V-7-1、2）

資料 V-7-1 Multidisciplinary Studies について



(出典：http://www.c3.kumamoto-u.ac.jp/SGU/strategies_plan1/)

資料V-7-2 GLC の教育支援について

カリキュラム
Curriculum and Program

グローバルリーダーコースでは、旧熊本五業専門学校(ごうきよごとつ)の精神を受け継ぎ、グローバルリーダーを育成するためのプログラムを「GOKOH School Program」と名付けました。

GOKOH School Program
旧熊本五業の伝統と精神を受け継ぎ、未来へつなぐ

グローバルな視点 **G**lobal perspective
開かれた心 **O**pen-mindedness
知識構築は **K**nowledge building for
最大限の可能性を引き出し **O**ptimal possibilities and
より高い目標へと導く **H**igher goals

GOKOH School Program

「GOKOH School Program」は、大きく分けて、「グローバル基礎プログラム」と「グローバル専門教育プログラム」の2つの区分からなります。

GOKOH School Program Image.

[Academic Skill]

多岐に渡る科目を履修することで身につけた多岐にわたる知識・技能
高度な専門的知識の習得
専門基礎力の構築
国際的な知識・技能の習得
クリティカルシンキング
知識の習得をグローバルに活用できるリーダー

1年次
2年次

入学前
入学
卒業

GLC 合格
GLC 入試

GLC 入試
合格
入学前
入学
卒業

コース終了・卒業
進学・就職

特別企画
海外インターンシップ・留学
世界・日本・地域を〇〇するフィールドワーク

PICK UP

熊本大学
Kumamoto University

大学教育統括管理運営機構
UNIVERSITY FOR EXCELLENCE AND INNOVATION

グローバル教育カレッジ
COLLEGE OF INTERNATIONAL EDUCATION AND LEADERSHIP STUDIES

熊本大学
Kumamoto University
熊本大学総合支援システム

Kumamoto University
熊本大学 シラバス

スーパーグローバル大学
創成支援事業
TOP GLOBAL UNIVERSITY PROJECT

(出典：<http://hgac.kumamoto-u.ac.jp/GLC/curriculum/curriculum.html>)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

グローバル教育カレッジが提供する Multidisciplinary Studies 及び GLC に対する教育支援の目的について、Web ページにて広く公表しているため。

観点 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

グローバル教育カレッジが、教育支援を行う GLC についての入学者受入方針や教育課程の編成などについては、Web ページやパンフレットにて公表・周知している（資料 V-8-1）。

また、留学生のための情報を掲載するとともに、小冊子を発行して修学上、生活上の支援も行っている（資料 V-8-2）。

資料 V-8-1 GLC について

アドミッションポリシー（求める学生像）

グローバルリーダーコースでは、広く世界に目を向け、自ら主体的に学び、本質を見極める力を育んできた人を受け入れ、多様な価値観、文化の違いを理解できる豊かな教養と国際感覚・国際対話力を有するとともに、地域に根ざし、グローバルな環境で活躍する意欲と資質を持つ人を育てます。

1. 国際化に対応する幅広い教養を身につけたい人
2. 国際交流および国際的なビジネスに携わることに関心のある人
3. 国際化社会を牽引する強い胆力（精神力）を身につけたい人
4. 高度な専門性を国際社会で展開させたい人
5. 地域に根ざし、グローバルに活躍する意欲と資質をもつ人

入試の概要

熊本大学では、平成29年度から文学部、法学部、理学部および工学部の各学部でグローバルリーダーコースを設置し、平成30年度（平成31年度入学希望者）も4学部協働の入試試験の実施します。

この入試では確かな基礎学力に加えて、英語の基本的な運用力、論理展開力、表現力、課題解決能力、コミュニケーション能力を、書類審査等により総合的に評価します。

● 平成31年度グローバルリーダーコース学生募集

募集人員	50人（文学部10人、法学部10人、理学部10人、工学部20人）
出願資格	平成29年3月以降の卒業生および平成31年3月卒業見込みの者
出願期間	平成30年9月7日（金）～9月13日（木）

(出典：<http://hqac.kumamoto-u.ac.jp/GLC/examin/examin.html>)

資料V-8-2 留学生向けの情報について



(出典：<http://www.c3.kumamoto-u.ac.jp/kumadai/abroad/>)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

教育支援を行っている GLC については、入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針が Web ページにて適切に公開されている。

観点 教育研究活動等についての情報（学校教育法施行規則第 172 条に規定される事項を含む。）が公表されているか。

(観点に係る状況)

以下の教育研究活動等についての情報を Web ページにて広く公表している。

【教育活動の状況】

(1) 教育活動の規模

- 各センターの紹介
- 英語による教養教育 Multidisciplinary Studies について
- GLC の教育支援について
- インターンシップ提供状況(取り組み)

(2) 修得すべき知識・能力の明確化と、それを体系的に修得できる教育課程

- 学位授与の方針・カリキュラム編成の方針

(3) 外国人教員数

【国際化の状況】

(1) 教育の国際連携の状況

- 協定を締結している海外の大学
- 教員渡航数・研究者受入数
- 海外学生派遣数
- 留学生数

(2) 大学としての国際戦略

(3) グローバル化推進体制

(4) 留学生への対応

- 学部入試スケジュールの概略（英語）
- 入学後の生活に関すること（留学生の手引き等）[英語・日本語]

(5) 英語による授業のみで学位取得可能なコース等

(6) 海外のOB会等の設置に係る情報

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

教育研究活動等についての情報を Web ページにて広く公表しているため。

分析項目VI 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

観点 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

グローバル教育カレッジは、全学教育棟及びグローバル教育カレッジ棟の二つの建物に施設・設備を保有している。

全学教育棟の設備は、主に留学生向けの日本語教育を目的として使用されており、6つの教室、日本語準備室の他に4つの研究室を備えている。

グローバル教育カレッジ棟には、4つの教室、スタッフ共同研究室、各専任教員個人の研究室やカレッジ長室等がある。また、「Prayer room」として使用できるよう1部屋準備している。

いずれの教室（演習室）も、AV機器や情報コンセントを備えている。

さらに、グローバル教育カレッジ棟には、留学生同士あるいは留学生及び日本人学生が交流を図る目的で「ラウンジ」を設けており、イベント実施時に有効活用されている（資料V-10-1）。

全学教育棟及びグローバル教育カレッジ棟は、スロープ、引き戸ドア等、バリアフリー化している。また、入口付近に防犯カメラが設置されており、安全性に配慮している。

資料V-10-1 「ラウンジ」の活用事例について (Soseki Global Café 実施報告書)

Soseki Global Café アンケート 集計結果

アンケート回答者数 47人

1. 職業

選択肢	人数	%
① 大学生	32	68%
② 大学院生	0	0%
③ 社会人	4	9%
④ その他	11	23%
○ 未記入	0	0%

2. 国籍

選択肢	人数	%
① 日本	34	72%
② 日本外	8	17%
○ 未記入	5	11%

3. このイベントを知ったきっかけ

選択肢	人数	%
① 学校等の掲示	10	21%
② Webページ	1	2%
③ 友達や先生の紹介	0	0%
④ 広報誌	35	74%
⑤ その他	0	0%
○ 未記入	0	0%

4. Soseki Global Café はどうでしたか

選択肢	人数	%
① 楽しかった	43	91%
② まあまあ	3	6%
③ あまり楽しなかった	0	0%
④ 楽しくなかった	0	0%
○ 未記入	1	2%

5. どのイベントに参加されましたか

選択肢	人数	%
① 大変よく交流できた	1	2%
② 交流できた	37	79%
③ 普通	0	0%
④ あまり交流できなかった	2	4%
⑤ 全く交流できなかった	0	0%
○ 未記入	2	4%

6. 満足度

選択肢	人数	%
① 大変満足した	29	62%
② 満足した	16	34%
③ 普通	1	2%
④ やや不満だ	0	0%
⑤ 不満だ	0	0%
○ 未記入	1	2%

☆ 事業に参加しての意見・感想
 個々の意見・感想は、以下の通り。
 とてもおいしかったです。国際交流会館に入ってみたかったのでいい機会でした！
 国際交流できるいい機会だと思います。ありがとうございました。
 和やかな雰囲気でした。スタッフの方々も親切で好感がもてました。
 本場の辛さにはびっくりしました…!!様々な言語がとびかかっていて新鮮でした
 俳句を英語で読む機会はあまりないと思うので、体験できて楽しかったです！
 俳句を英語で楽しむことができ、それについての考えも、共有できてとても楽しかった！料理もおいしかったです！
 異文化と触れ合う機会はなかなかないので、良い機会になりました。
 興味本位で参加したがとても楽しい時間を過ごしました



C3がキッチンで韓国料理を製作中



高校生も俳句リレーにチャレンジ



C3による日本の伝統的な遊びも子供達に好評でした



五高記念館から制服を借用しました

(出典：平成28年度第6回グローバル教育カレッジ運営委員会資料より)

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

全学教育棟及びグローバル教育カレッジ棟は、バリアフリー化しており、教育を実施するにあたり、十分な教室及び設備を備えている。また、グローバル教育カレッジ棟には、留学生及び日本人学生が交流を図る目的で「ラウンジ」を設けてあり、多くの学生に活用されているだけでなく、様々な交流企画でも活用されているため。

観点 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

グローバル教育カレッジ棟と全学教育棟では、学内無線 LAN が利用可能であり、授業で活用されている。また、Web サーバーを 3 台設置しており、教員の教育活動、GLC 生の学習支援、日本語クラスの運用、学習や生活支援のために活用されている。

なお、日本語クラス向けの Web サーバーに関しては、平成 28 年 4 月の熊本地震時に破損し、平成 29 年度春学期に復旧した。CMS を使用し、特に、日本語研修コースの初級クラスの授業記録用サイトとして運用を再開した。初級には 2 クラスで、合計週あたり 15 コマの授業があり、各クラスで 3～5 名の教員が担当する。毎日の授業報告、授業計画の共有が必須であり、このサイトを活用することで、能率的なクラス運営が可能となった(資料 V-11-1)。

資料 V-11-1 日本語・日本文化教育センター Web ページ



(出典 : <https://kujlc.org/>)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

ICT 技術を活用したマルチメディア教育が可能である。また、学生のニーズに合った ICT 環境が適切に整備され、有効に活用されていると判断するため。

観点 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

グローバル教育カレッジ棟の事務室には、学生が自由に貸し出しできる IELTS や TOEFL 関連などの書籍を配架している(資料V-12-1)。

全学教育棟には、日本語準備室に、日本語教育関係の教科書や視聴覚教材、関連専門分野の専門書や学術雑誌及び国内外の教育機関から送付される紀要・報告書等を多数備えており、非常勤講師や学生の利用に供している。

資料V-12-1 グローバル教育カレッジ図書一覧抜粋

Book No. 管理番号	書 名	Publisher 出版社
C1	Official IELTS Practice Materials 2009	University of Cambridge/British Council
C2	Official IELTS Practice Materials 2 2010	University of Cambridge/British Council
C3	Vocabrary for IELTS (with CD)	Cambridge English Corpus
C4	Step Up to IELTS	Campridge Univ. Press
C5	Objective IELTS	Campridge Univ. Press
C6	Action Plan for IELTS	Campridge Univ. Press
C7	Preparation Course for the TOEFL Test	Longman
C8	CD付 IELTS完全対策&トリプル模試	(株)DHC
C9	CD付 IELTS完全対策&トリプル模試	(株)DHC
C10	新セルフスタディIELTS完全攻略	The Japan Times
C11	新セルフスタディIELTS完全攻略	The Japan Times
C12	IELTSスピーキング・ライティング完全攻略	トフルゼミナール
C13	IELTSスピーキング・ライティング完全攻略	トフルゼミナール
C14	IELTS プリティッシュ・カウンシル公認問題集	旺文社
C15	IELTS プリティッシュ・カウンシル公認問題集	旺文社
C16	パーフェクト攻略IELTSライティング	トフルゼミナール
C17	パーフェクト攻略IELTSライティング	トフルゼミナール
C18	実践IELTS英単語3500	旺文社
C19	IELTS必須英単語4400	ベレ出版
C20	留学ジャーナル 別冊2017-2018	(株)留学ジャーナル

(出典：熊本大学 Web ページより)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

教育上必要な資料を継続的に入手・保管し、非常勤講師や学生の利用に供していることから、有効に活用されていると判断する。

観点 自主学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

グローバル教育カレッジ棟のラウンジは、学生が目的に応じて、自主的にスペースを作り、グループまたは個人で自習学習を行える環境となっている。また、ラウンジ付近は、自習室としての機能のほか、留学生向けの情報や海外留学に関する情報などが掲示されており、留学や国際交流に関する情報を発信する場所として効果的に利用されている。なお、利用可能時間は、平日朝8時30分から夕方18時までとなっている。

(水準)

期待を上回る水準にある。

(判断理由)

グローバル教育カレッジ棟のラウンジは、自主学習スペースとしてだけでなく、留学生と日本人学生が交流する場としても活用されているため。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること。

(判定区分)

質を維持している

(理由)

管理運営のための組織の規模は適切であり、グローバル教育カレッジ長のリーダーシップの下、迅速な意思決定ができる体制を構築している。

また、グローバル教育カレッジの活動を支援する事務組織として、国際戦略課及び国際教育課があり、教職協働による大学全体の国際的評価及び国際競争力向上のための戦略的取組を展開している。

各意見や要望へ迅速に対応する機能を有し、留学生に関する各種情報の把握を徹底しており、適切な管理体制を築いている。

上記により、「質を維持している」と判断できる。

(2) 分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

(判定区分)

質を維持している

(理由)

グローバルアドバイザリーボードに先立ち、グローバル教育カレッジの活動も含めた本学の国際化に関する取り組みを報告書として作成し、学内外関係者に報告を行うことで、グローバル教育カレッジの活動の総合的な状況に関する自己点検・評価を行った。また、グローバルアドバイザリーボードにおける各委員からの助言については、グローバル教育カレッジ運営委員会等の事項として審議されており、継続的に改善するための体制が整備されている。

上記により、「質を維持している」と判断できる。

(3) 分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

(判定区分)

質を維持している

(理由)

グローバル教育カレッジに関する教育活動については、日本語だけでなく英語を含む外国語で発信しており、広く公表している。

上記により、「質を維持している」と判断できる。

(4) 分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

(判定区分)

改善、向上している

(理由)

グローバル教育カレッジは、全学教育棟及びグローバル教育カレッジ棟の二つの建物に教室があり、教育に必要な施設・設備を保有している。また、グローバル教育カレッジ棟のラウンジは、学習・交流支援のため有効に利用されている。さらに、図書室(日本語準備室及びグローバル教育カレッジ棟事務室)は、教育上必要な資料を継続的に入手・保管し、随時閲覧可能な状態になっている。

上記により、「改善、向上している」と判断できる。